

べつ

ふ

第3回
子ども市議会



平成17年8月2日
開会

会

録

議



別府市議会議長

永井 正

子ども市議会を終えて

平成15年12月より開催しております「べっぷ子ども市議会」も、今回で三回目を迎えることができました。

子供たちと共にこの子ども市議会も成長してきたように感じております。

子供たちのふるさと別府には、大勢の人が生活しています。その生活の中で人の立場に立ち、自分も、そして自分以外の人も皆が幸せに暮らせる方法を考えるところが、それが議会という場所だということをお子様たちも経験してくれたことと思います。

この子供たちが、未来の別府を支えてくれる私たちの希望です。ひとつずつ子供たちに夢を託しながらバトンを正確に渡していくのが、今の私たちに与えられた使命と考えております。

終わりになりましたが、今回も子ども市議会開催に当たり、ご尽力くださいました先生方、PTA、並びに市子連の皆様方に対しまして心から感謝申し上げます。



別府市長

浜田 博

次代を担う確かな視点と創造的な提言

3回目を迎えました小学生と中学生の議員による「べっぷ子ども市議会」は、次世代を担う子どもたちの確かな視点と創造性豊かな提言により、多くの成果とともに、大変素晴らしい子ども市議会となりました。

また、「伝統」、「自然環境」、「地域のコミュニティ」を守り、残し、大切にすることを提唱した子ども宣言「ふれあい町づくり別府」は、市民全員で取り組まねばならない約束ごとであり、実行してまいりたいと考えております。

私たちは夢と希望に満ちあふれる「元気なべっぷ」をめざし、「ONSENツーリズム」の振興により、次世代の子どもたちのためのまちづくりを進めていかなければならないことを改めて認識することができました。

ご尽力いただきました先生方、保護者の方々、そして関係者の皆様心から感謝を申し上げますとともに、次回の「べっぷ子ども市議会」の開催を楽しみにしております。

本当にありがとうございました。

議長



松田翔太郎議員（山の手中3年）

副議長



西岡拓紀議員（北部中3年）

一般質問



小西めぐみ議員（春木川小6年）



大野まや議員（東山中3年）



堀 友美議員（山の手中3年）



村岡洋樹議員（中部中3年）



松木早紀議員（上人小6年）



村田憲人議員（鶴見台中3年）



飯田麻貴議員（東山小6年）



稲村竜大議員（大平山小6年）



近藤 壮議員（朝日中3年）



大塚衆生議員（鶴見小6年）



松川由衣議員（北部中3年）



來司優子議員（緑丘小6年）



水本枝理議員（青山中2年）



浅井里奈議員（青山小6年）



中原美夏議員（浜脇中3年）



奥迫胡桃議員（南小6年）

提 言



田代鷹雄議員（亀川小6年）



阿部紀子議員（青山中3年）



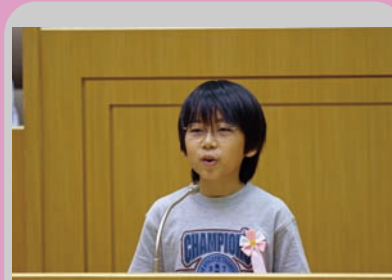
又江原早紀議員（中部中3年）



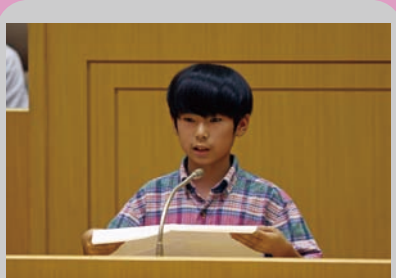
鈴木麻里議員（鶴見台中3年）



豊田純也議員（北小6年）



森永圭一朗議員（朝日小6年）



後藤健太議員（境川小6年）



菅 弦太議員（石垣小6年）



田辺ちはる議員（野口小6年）



佐藤千聡議員（南立石小6年）



岩見英樹議員（西小6年）



古庄美里議員（朝日中3年）

子ども宣言

謝 辞



松野 拓議員（浜脇中3年）



首藤友香理議員（東山中2年）

第3回「べっぷ子ども市議会」会議録 目次

・ 会期日程表		1
・ 上程議案議決一覧表		1
・ 一般質問表		1
・ 提言者一覧表		3
第1号（8月2日・火曜日）		
・ 出席議員		5
・ 欠席議員		6
・ 説明のための出席者		6
・ その他出席者		6
・ 議会事務局出席者		7
・ 議事日程表（第1号）		7
・ 本日の会議に付した事件		7
（開 会）		9
・ 議席の指定		9
・ 会議録署名議員の指名		10
・ 会期の決定		11
・ 一般質問	質問者・小 西 めぐみ 議員	11
	答弁者・高 橋 徹 生活環境部長	11
	答弁者・金 澤 晋 建設部長	12
	答弁者・浜 田 博 市長	13
	質問者・大 野 ま や 議員	13
	答弁者・山 川 浩 平 観光経済部長	14
	答弁者・浜 田 博 市長	14

質問者・堀	友美	議員	15
答弁者・岡部	光瑞	福祉保健部長	16
答弁者・松岡	真一	建設部参事	16
答弁者・浜田	博	市長	17
質問者・村岡	洋樹	議員	18
答弁者・高橋	徹	生活環境部長	19
答弁者・金澤	晋	建設部長	19
答弁者・山川	浩平	観光経済部長	20
答弁者・浜田	博	市長	20
質問者・松木	早紀	議員	21
答弁者・山川	浩平	観光経済部長	22
答弁者・浜田	博	市長	22
質問者・村田	憲人	議員	23
答弁者・龜山	勇	企画部長	23
答弁者・浜田	博	市長	24
質問者・飯田	麻貴	議員	25
答弁者・高橋	徹	生活環境部長	26
答弁者・金澤	晋	建設部長	26
答弁者・浜田	博	市長	27
質問者・稲村	竜大	議員	28
答弁者・金澤	晋	建設部長	28
答弁者・浜田	博	市長	29

質問者・近藤 壮 議員	2 9
答弁者・山川 浩平 観光経済部長	3 0
答弁者・浜田 博 市長	3 0
質問者・大塚 衆生 議員	3 2
答弁者・岡部 光瑞 福祉保健部長	3 3
答弁者・松岡 真一 建設部参事	3 3
答弁者・山川 浩平 観光経済部長	3 4
答弁者・浜田 博 市長	3 4
質問者・松川 由衣 議員	3 5
答弁者・金澤 晋 建設部長	3 5
答弁者・浜田 博 市長	3 6
質問者・來司 優子 議員	3 6
答弁者・金澤 晋 建設部長	3 7
答弁者・浜田 博 市長	3 8
質問者・水本 枝里 議員	3 8
答弁者・龜山 勇 企画部長	3 9
答弁者・浜田 博 市長	3 9
質問者・浅井 里奈 議員	4 0
答弁者・高橋 徹 生活環境部長	4 1
答弁者・浜田 博 市長	4 1
質問者・中原 美夏 議員	4 2
答弁者・金澤 晋 建設部長	4 2

	答弁者・浜 田 博 市長	4 3
	質問者・奥 迫 胡 桃 議員	4 4
	答弁者・山 田 俊 秀 教育長	4 4
	答弁者・浜 田 博 市長	4 5
(休 憩)		4 5
(再 開)		4 6
・ 提言の発表	田 代 鷹 雄 議員	4 6
	阿 部 紀 子 議員	4 6
	又江原 早 紀 議員	4 7
	鈴 木 麻 里 議員	4 7
	豊 田 純 也 議員	4 8
	森 永 圭一朗 議員	4 9
	後 藤 健 太 議員	4 9
	菅 弦 太 議員	5 0
	田 辺 ちはる 議員	5 0
	佐 藤 千 聡 議員	5 1
	岩 見 英 樹 議員	5 1
	古 庄 美 里 議員	5 2
・ 議員提出議案第 1 号子ども宣言について、上程		5 2
・ 提案理由説明	松 野 拓 議員	5 3
・ 表 決		5 3
・ 閉 会		5 3

[閉 会 式] 目 次

・ 閉会式次第	5 5
---------	-----

・開 会	5 7
・市議会議長あいさつ	永 井 正 市議会議長	5 7
・市長あいさつ	浜 田 博 市長	5 8
・記念品の贈呈	山 田 俊 秀 教育長	5 9
・子ども議員代表者謝辞	首 藤 友香里 議員	5 9
・閉 会	6 0

第3回「べっぷ子ども市議会」会議録

○会 期 平成17年8月2日(1日間)

○会期日程表

平成17年8月2日(火)本会議 議席の指定、会議録署名議員の指名、会期の決定、一般質問、提言、議員提出議案第1号 子ども宣言について

○上程議案議決一覧表

議員提出議案第1号 子ども宣言について 平成17年8月2日 原案可決

○一般質問表

質 問 項 目	質 問 議 員
きれいな川にするために	13番議員・春木川小学校 小 西 めぐみ
観光地活性化のプロジェクトについて	17番議員・東山中学校 大 野 ま や
バリアフリーについて	31番議員・山の手中学校 堀 友 美
環境保護について	23番議員・中部中学校 村 岡 洋 樹

外国人留学生の住みよいまちづくりについて	10番議員・上人小学校 松木早紀
別府の過疎化対策について	29番議員・鶴見台中学校 村田憲人
川の環境保護について	16番議員・東山小学校 飯田麻貴
緑の多い街にするために	15番議員・大平山小学校 稲村竜大
別府観光の方向性について	27番議員・朝日中学校 近藤 壮
バリアフリーについて	8番議員・鶴見小学校 大塚衆生
福祉と道路整備について	21番議員・北部中学校 松川由衣
公園と安心して歩ける道路について	14番議員・緑丘小学校 来司優子
バスの充実について	19番議員・青山中学校 水本枝里

児童の安全と別府のまちづくりについて	6 番議員・青山小学校 浅井里奈
浜脇地区の活性化について	26番議員・浜脇中学校 中原美夏
旧南小学校跡地の利用について	4 番議員・南小学校 奥迫胡桃

○提言表

提 言 内 容	提 言 議 員
亀川地区への大型ショッピングセンターの設置について	9 番議員・亀川小学校 田代鷹雄
産業施設の設置について	20番議員・青山中学校 阿部紀子
自然・文化遺産の保存について	24番議員・中部中学校 又江原早紀
通学路の公衆電話について	30番議員・鶴見台中学校 鈴木麻里
児童の防犯について	3 番議員・北小学校 豊田純也

人との関わりのある環境づくりについて	11番議員・朝日小学校 森 永 圭一朗
別府の観光について	2 番議員・境川小学校 後 藤 健 太
子どもと高齢者との交わりについて	12番議員・石垣小学校 菅 弦 太
安全な道路について	1 番議員・野口小学校 田 辺 ちはる
観光とまつりにについて	7 番議員・南立石小学校 佐 藤 千 聡
森林（自然）保護について	5 番議員・西小学校 岩 見 英 樹
学校の施設の充実について	28番議員・朝日中学校 古 庄 美 里

第3回「べっぷ子ども市議会」会議録(第1号)

平成17年8月2日

出席議員(32名)

1番議員	野口小学校	6年	田 辺 ちはる さん
2番議員	境川小学校	6年	後 藤 健 太 君
3番議員	北 小 学 校	6年	豊 田 純 也 君
4番議員	南 小 学 校	6年	奥 迫 胡 桃 さん
5番議員	西 小 学 校	6年	岩 見 英 樹 君
6番議員	青山小学校	6年	浅 井 里 奈 さん
7番議員	南立石小学校	6年	佐 藤 千 聡 さん
8番議員	鶴見小学校	6年	大 塚 衆 生 君
9番議員	亀川小学校	6年	田 代 鷹 雄 君
10番議員	上人小学校	6年	松 木 早 紀 さん
11番議員	朝日小学校	6年	森 永 圭一朗 君
12番議員	石垣小学校	6年	菅 弦 太 君
13番議員	春木川小学校	6年	小 西 めぐみ さん
14番議員	緑丘小学校	6年	來 司 優 子 さん
15番議員	大平山小学校	6年	稲 村 竜 大 君
16番議員	東山小学校	6年	飯 田 麻 貴 さん
17番議員	東山中学校	3年	大 野 ま や さん
18番議員	東山中学校	2年	首 藤 友香理 さん
19番議員	青山中学校	2年	水 本 枝 里 さん
20番議員	青山中学校	3年	阿 部 紀 子 さん
21番議員	北部中学校	3年	松 川 由 衣 さん
22番議員	北部中学校	3年	西 岡 拓 紀 君
23番議員	中部中学校	3年	村 岡 洋 樹 君
24番議員	中部中学校	3年	又江原 早 紀 さん

25番議員	浜脇中学校	3年	松野	拓君
26番議員	浜脇中学校	3年	中原	美夏さん
27番議員	朝日中学校	3年	近藤	壮君
28番議員	朝日中学校	3年	古庄	美里さん
29番議員	鶴見台中学校	3年	村田	憲人君
30番議員	鶴見台中学校	3年	鈴木	麻里さん
31番議員	山の手中学校	3年	堀	友美さん
32番議員	山の手中学校	3年	松田	翔太郎君

欠席議員（なし）

説明のための出席者

市長	浜田	博君	助役	大塚	利男君
収入役	林	慎一君	教育長	山田	俊秀君
水道局長	宮崎	眞行君	監査委員	由川	盛登君
総務部長	友永	哲男君	企画部長	亀山	勇君
観光経済部長	山川	浩平君	建設部長	金澤	晋君
生活環境部長	高橋	徹君	福祉保健部長	岡部	光瑞君
建設部参事	松岡	真一君	消防長	加藤	隆久君
学校教育課長	利光	弘文君			

その他出席者

別府市議会議長	永井	正君
別府市議会副議長	堀本	博行君
別府市議会子ども会を支える議員連盟会長	首藤	正君
別府市子ども会育成会連合会会長	平松	徹夫君
別府市PTA連合会会長	中島	一志君

議会事務局出席者

局 長	杉 田 浩	参事兼庶務係長	加 藤 陽 三
次長兼調査係長	是 永 敏 明	議 事 係 長	本 田 明 彦
主 査	渡 辺 敏 之	主 査	濱 崎 憲 幸
主 査	永 野 修 子	主 査	柏 木 正 義
主 査	村 上 正 人	事 務 員	吉 野 真由美

議事日程表（第1号）

平成17年8月2日（火曜日）午前9時開議

- 第1 議席の指定
- 第2 会議録署名議員の指名
- 第3 会期の決定
- 第4 一般質問
- 第5 提 言
- 第6 議員提出議案第1号 子ども宣言について

本日の会議に付した事件

日程第1～日程第6（議事日程に同じ）

市議会事務局長（杉田 浩君） おはようございます。初めに、議長、副議長の選出ですが、あらかじめ決定されております。御紹介をさせていただきます。議長は、山の手中学校 3年生 松田翔太郎君。副議長は北部中学校 3年生 西岡拓紀君 に お願いいたしますのでよろしくお願いいいたします。

それでは、松田翔太郎君と西岡拓紀君は議長席、副議長席までお願いいいたします。

午前9 時00分 開会

議長（松田翔太郎君） おはようございます。

ただいま、ご紹介をいただきました、議長役の山の手中学校の松田翔太郎と副議長役の北部中学校の西岡拓紀君です。

日本一の温泉のまちづくりのため、また、日本一の子ども市議会になるよう頑張っていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいいたします。

これより、第3回「べっぴん子ども市議会」を開会いたします。

開会にあたり、市長さんをはじめ多くの皆さんの出席をいただきました。

本日の議事は、「議事日程第1号」により行います。

日程第1により、議席の指定を行います。

議席は、議長において指定いたします。

議席番号と氏名を職員の方に読み上げてもらいます。

市議会事務局主査（永野修子さん） それでは、議席番号と氏名を読み上げますので、

「はい」と返事をし、起立の上一礼をしてください。

1番議員	野口小学校	田 辺	ちはる	さん
2番議員	境川小学校	後 藤	健 太	君
3番議員	北 小 学 校	豊 田	純 也	君
4番議員	南 小 学 校	奥 迫	胡 桃	さん
5番議員	西 小 学 校	岩 見	英 樹	君
6番議員	青山小学校	浅 井	里 奈	さん
7番議員	南立石小学校	佐 藤	千 聡	さん
8番議員	鶴見小学校	大 塚	衆 生	君
9番議員	亀川小学校	田 代	鷹 雄	君

10番議員	上人小学校	松木早紀さん
11番議員	朝日小学校	森永圭一朗君
12番議員	石垣小学校	菅弦太君
13番議員	春木川小学校	小西めぐみさん
14番議員	緑丘小学校	來司優子さん
15番議員	大平山小学校	稲村竜大君
16番議員	東山小学校	飯田麻貴さん
17番議員	東山中学校	大野まやさん
18番議員	東山中学校	首藤友香理さん
19番議員	青山中学校	水本枝里さん
20番議員	青山中学校	阿部紀子さん
21番議員	北部中学校	松川由衣さん
22番議員	北部中学校	西岡拓紀君
23番議員	中部中学校	村岡洋樹君
24番議員	中部中学校	又江原早紀さん
25番議員	浜脇中学校	松野拓君
26番議員	浜脇中学校	中原美夏さん
27番議員	朝日中学校	近藤壮君
28番議員	朝日中学校	古庄美里さん
29番議員	鶴見台中学校	村田憲人君
30番議員	鶴見台中学校	鈴木麻里さん
31番議員	山の手中学校	堀友美さん
32番議員	山の手中学校	松田翔太郎君

以上でございます。

議長（松田翔太郎君） ただいま、職員の方に読み上げていただいたとおり、議席を指定いたします。

次に、日程第2により、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、

5番 岩見英樹君

7番 佐藤千聡さん

26番 中原美夏さん

以上、三名の方をお願いいたします。

次に、日程第3により、会期決定の件を議題といたします。子ども市議会の会期は本日一日といたしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔〔異議なし〕と呼ぶ者あり〕

議長（松田翔太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、子ども市議会の会期は本日一日と決定いたしました。

次に、日程第4により、一般質問を行います。一般質問者は16名です。質問順位により、質問をお願いいたします。

最初に、13番議員、春木川小学校の小西めぐみさんの一般質問をお願いいたします。

13番議員（小西めぐみさん） 私の通っている春木川小学校は、年に一度家の方と近所の方と共に近くの川「春木川」のそうじをしています。

でも少しもゴミが減らないことに困っています。そこで私たちは、学級の皆で話し合いをし、意見を出し合いました。みんなからは、「春木川を昔みたいに泳げる川にしたい。」「魚がたくさん住める川にしたい。」「ホタルにまたもどってきてほしい。」などの意見が出されました。そこで週に一度学校の近くの所だけでもきれいにしようと思ってゴミ拾いをしています。

また、土木事務所まで行ってかん板の事を話し、手づくりのかん板を立てました。それでもなかなかゴミは減りません。もっと多くの人にもゴミを捨てないようにしてほしいと思っています。そうじをする人と日程を決めて川のそうじはできませんか。例えば、今回は東町地区の人、次は春木地区の人というふうにするのはどうでしょうか。

また、別府市は川をきれいにするためにどんな取り組みをしているか教えてください。

議長（松田翔太郎君） 生活環境部長。

生活環境部長（高橋 徹君） お答えいたします。

ごみのポイ捨てや散乱は大変残念なことです。川のごみが海に流れて行きまして、海の汚れとなりますし、川がきれいになれば、みなさんが、川で泳ぐこともできま

すし、魚もたくさん住めるようになると思います。蛍も飛び交うようになるんじゃないかなと思っております。そのためには、川にごみを捨てないようにすることや、台所やお風呂の水などを川に流さないように、下水道につないでいただいたり、浄化槽を設置していただいたりするように今、お願いをしているところでございますが、まだ十分ではないのが現状でございます。小西さんの言われるように、順番を決めて川を清掃することは、効果が上がると思いますが、春木川周辺の自治会で「春木川を守る会」をつくっております。いろいろな活動をしておりますので学校を通じて相談なさってはいかがかなと思っております。別府市もごみのポイ捨てや川の汚れのないように市報やケーブルテレビなど、いろいろな機会を通じて呼びかけていきたいと思っております。

議長（松田翔太郎君） 建設部長。

建設部長（金沢 晋君） 小西さんの先ほどの質問に対して建設部の方からお答えさせていただきます。

春木川をゴミのないきれいな川にしたいとの思いと清掃活動大変ありがとうございます。小西さんのご指摘のように、ゴミが減らないのは本当に困った問題であります。

このゴミの問題は、川に限らず道路、公園でも同じです。

まず、ゴミを捨てる人たちの気持ちに問題があると思っております。

別府市民の一人ひとりが、小西さんの川をきれいにしたいという気持ちと同じように、観光都市であります別府をきれいにしていきたいという気持ちを持つことが大切だなあと思っているところでございます。

また、川の水が汚れている原因ではありますが、家庭で使った台所の水や、浴室、洗濯等の汚れた水が川に流れ込んでいるのが原因と思っておりますが、以前きれいだった川も人口の増加により汚れが進んでおります。動植物が住みにくい環境になってしまいました。別府市ではきれいな川を取り戻すために、45年前、昭和35年になりますが、公共下水道事業をはじめ公共整備を進めているところでございます。

市といたしましては、今後、春木川をきれいにするために、川の管理者であります別府土木事務所や「春木川を守る会」の人たちと相談しながら「ゴミ問題」の解決の方法を考えていきたいと考えております。以上でございます。

議長（松田翔太郎君） 市長。

市長（浜田 博君） 小西めぐみ議員の質問にお答えをいたします。

春木川をきれいにするために、小西さんの学級で、毎週ゴミ拾いをして、手づくりの看板をつくったり、また、少しでもゴミを減らそうということで、多くの人にゴミを捨てないよう活動をしていただきまして本当にありがとうございます。

その努力、気持ちは本当に大切なことだと思います。

今、春木川だけでなく、日本中の河川で環境問題が起こっております。そして、川をきれいにする運動もあちこちで起こっています。別府市でもたくさん起こっていますが、大分県内でもですね、豊後大野市、前の旧三重町ですが、白山川というのがあります。地域の人たちが川の浄化に努めましてね、蛭が飛び交うように、昔のようにきれいな川になりました。

小西さんの学級の活動が人の心を動かして、学校全体に広がって、また、家庭で、そして地域へ、ゴミ問題を考えるということになればね、そしてどうすればこの問題が解決できるのか、大きな関心事となれば、ほんとにすばらしいなと思っております。

そのためにも、小西さんや学級の皆さんも今後とも、春木川を思う気持ちを大切にしてください。そうすることで、川だけでなく、道路や公園も観光都市である別府がですね、本当にきれいになるし、ゴミのないきれいなまちになると考えております。

もちろん、別府市も大分県と協力して春木川をきれいにするために一生懸命にがんばっていきたいと思っております。貴重なご質問ありがとうございました。

議長（松田翔太郎君） 13番。

13番議員（小西めぐみさん） ありがとうございました。別府市が川をきれいにするためにどんな取り組みをしているのか、少しわかりました。これで私の質問を終わります。

議長（松田翔太郎君） 次に、17番議員、東山中学校の大野まやさんの一般質問をお願いいたします。

17番議員（大野まやさん） 私は東山の産業について質問いたします。

私が住んでいる東山は、志高湖や城島後樂園ゆうえん地、別府の森ゴルフ倶楽部

などの観光地があります。しかし、お客さんは市外や県外から訪れる人がほとんどです。働いている人たちも東山の人ではなく市街地から来る人が多いです。東山の人たちは、東山から出てまちに仕事を見つけに行きます。

観光地は、その日の天気や年によって訪れる人数が左右されます。一つ一つの観光地ではがんばっているのですが、一緒になり協力するような大きなプロジェクトはありません。私はそんな大きなプロジェクトがあれば、東山に訪れる人も多くなり、働くために東山から出て行く人も減っていくと思います。そうすれば、今、だんだん減り続けている東山の人口が増え、若い人たちが多くなることで東山が活気づくのではないかと考えています。

別府市では、観光地を活性化させるための大きなプロジェクトなどは予定されていないのでしょうか。予定されている計画があれば教えてください。

議長（松田翔太郎君） 観光経済部長。

観光経済部長（山川浩平君） お答えを申し上げます。ただいまの観光地活性化プロジェクトの件についてお答えをいたしたいと思います。東山地域は阿蘇・くじゅう国立公園の指定を受けてございます。したがって、国立公園内の開発することは、難しい状況にございますけれども、東山地域は自然との共生が大きなテーマになっておりますので、大型施設建設等は慎重に対応する必要があると思います。また、別府市国土利用計画でも自然維持活用地域として自然と調和したふれあいの場としての活用を目指しております。

そのため大野さんのご質問の大型のプロジェクトの開発ということにつきまして、現在は予定されておりませんが、志高湖・神楽女・それから城島等々ございますので、これらの施設を観光拠点としながら、その良好な自然の保全とともにルートづくりができればなということで、行政といたしても努力をいたしておりますので、観光・地域振興を図ってまいりたいと考えています。

議長（松田翔太郎君） 市長。

市長（浜田 博君） 大野まや議員さんの質問にお答えします。

観光経済部長がお答えしましたように東山地区での大型プロジェクトは現在予定されていないのが実情でございます。別府市全体としては、温泉や山と並びまして、別府の宝である海、海岸部ですね、昨年からしっかりと工事が始まっておりまして、

23年度までには完成する予定となっております。海辺が近い親水性のある海岸が再生をされます。簡単に言いますとテトラポッドがずっとなくなって、自然の海が、砂浜がずっと戻ってまいりますから。まさに見違えるような海岸線となりますから、ぜひ期待をしていただきたいと思います。

東山等の山間部ですが、山はあらゆる温泉を含む自然、生き物をはぐくむ母とも言える大切な場所でございます。

大野さんのように地区の人が少なくなっていくという悲しい、さびしい現実が目に行くのはよくわかります。しかし住む人がそのまち、地域に誇りを持って大切に活かしていくことが本当に大切な時代ではないでしょうか。

そのように見ていくと、東山を中心とした自然・生活等を大野さんはもう一度見直していただければ、その良さが分かり、それがツーリズム振興へと結ばれていくと私は信じております。私も東山大好きでございます。

別府市といたしましても、東山を含む山間部のすばらしい自然を大切にしながら、しっかり保全し、現在「猪の瀬戸湿原」が失われつつあると新聞報道等されておりますが、それぞれを結ぶルートづくりや案内板整備等にも力を注いでいきたいとこのように考えています。

大野さんの現状をうれう気持ちも十分理解をし、今後の山間部を含めた別府観光の振興に努めていきたいとこのように考えております。貴重なご質問ありがとうございました。

議長（松田翔太郎君） 17番。

17番議員（大野まやさん） ありがとうございます。これで私の質問を終わります。

議長（松田翔太郎君） 次に、31番議員、山の手中学校の堀友美さんの一般質問をお願いいたします。

31番議員（堀 友美さん） 私は、別府のバリアフリーについて質問があります。別府は観光のまちとして、たくさんの観光客が行き来しています。その中で、障害者や高齢者へのバリアフリーはどうなっていますか。今、別府は新しい設備や建設物がどんどんできています。しかし、古い建物や道路などでのバリアフリーがまだまだ不十分のような気がします。例えば、古い建物に関しては、まだまだ、段差などの撤去やエレベーターの設置ができていなく高齢者や障害者が自由に移動することが

できません。

道路などでは、信号が短く高齢者や障害者が余裕を持ってわたることができないようです。点字ブロックの設備もまだまだ不十分のように思います。また、時々見かけるのですが、点字ブロックの上に自転車を乗せたりして、市民一人ひとりのバリアフリーに関する興味や関心なども薄いように思います。これらの問題は、今、別府市ではどのような対策を行っているのですか。具体的な内容があれば合わせて教えてください。

議長（松田翔太郎君） 福祉保健部長。

福祉保健部長（岡部光瑞さん） お答えいたします。

まずバリアフリーについては、福祉の部門と建設の部門とがありますので、まず、福祉の部門からお答えさせていただきます。

別府市では、高齢者や障害者の方が活動の場を広げて、自由な社会参加ができる社会にしていきたいと考えております。そのため、道路、公園や建物など生活環境面において、利用しやすいように、また高齢者や障害者が困らないようバリアフリーを推進しています。

高齢者や障害者などの方が、地域において不便な思いをせずに生活することができるように、多くの人が利用する公民館や旅館、ホテルなどが、玄関にスロープを設置したり、自動ドアを設置したり、又、障害者の方が利用しやすいトイレに改修する時は、民間の事業者、ホテルや旅館などでございますが、市から補助を出す制度をつくっております。

また、高齢者や在宅重度障害者などの個人に対しては、自宅を生活しやすいようにトイレ、浴室、洗面所、玄関、居間、台所など改修するときも補助を出す制度をつくっております。

議長（松田翔太郎君） 建設部参事。

建設部参事（松岡真一君） 堀さんの質問に建設部の方からお答えいたします。

高齢者や身体障害者の方、さらには妊産婦の方などすべての方が、公共交通機関を利用するときに、利用しやすくまた、より安全ということを目的にいたしまして交通バリアフリー法というものが制定されております。別府市ではこの法律に基づきまして、別府駅と亀川駅とその周辺地域を対象に別府市交通バリアフリー基本構

想というものを定めております。これをつくるときに、JRやバス会社やタクシーの方々それから、警察の方だけでなく、障害者の方、高齢者の方、さらには一般市民の方々などの参加をいただきまして、そして、現地点検などいろいろ勉強会を行いながら、行政と市民が一緒になってバリアフリー基本構想をつくりました。この基本構想に基づきまして整備を進めて行くというふうになっております。

このバリアフリー化事業の推進につきましては、各事業者とか、道路管理者の協力が必要になります。たとえばJR、バス等の公共交通機関ですね、それからバリアの解消には、多くの段差の解消とか、それから点字ブロックの解消とかそういうことがございます。こういう事業者とか道路管理者の方が改善を協力してやっていくということになっております。別府では障害者、高齢者の意見を聞きながらこのような事業管理者と連携、調整を図りながら心と体にやさしいまちづくりを目指して事業の実施を図っていきたいと思っております。

また、建物のことにつきましてですが、高齢者や身体障害者などが利用できる建築物の建築をすすめるための法律といたしましてハートビル法というものがございます。この法律に基づきまして、一定規模以上の不特定多数の人が利用するデパート、ホテル等については、施設を持っている人に、すべての市民や観光客の皆さんが安心して利用できるようバリアフリー化の推進をお願いしているところでございます。

なお、交通バリアフリー基本構想の内容については、インターネットにて公開しておりますので堀さんも一度見ていただきたいと思います。以上でございます。

議長（松田翔太郎君） 市長。

市長（浜田 博君） 堀友美議員の質問にお答えします。

バリアフリーの整備には、「道路、不特定多数の人が利用する建築物、さらには交通機関のバリアフリー化といったハード面の施策」ともう一つは「福祉、教育などの市民の意識に関わりの深いソフト面の施策」の双方を一体的に行なうことが必要と考えております。

別府市は、国内はもとより国際的にも恵まれた観光資源をもっています。毎年多くのお客さんに訪れていただきます。

また、平成20年には大分国体、二順目国体が開催されます。引き続いて、身体障

害者のスポーツ大会も開催される。このようになっておりますのでハード面でのバリアフリー化を積極的に推進していきたい。また、観光客や身体障害者の方などあらゆる人々が安全で快適に交流できる「こころとからだにやさしいまちづくり」を進めてまいりたいとこのように考えています。

さらに、このような環境整備だけではなくて、バリアフリーに関する情報の発信。学校教育とか研修会などを通しての啓発活動、地域の商店、関係機関の協力をいただきながら、ソフト面でのこころのバリアフリー化を推進してまいりたいと考えております。

このように、ハード面とソフト面の一体的推進を図ることが、観光のまちとしての魅力を最大限生かせる「こころ」と「からだ」にやさしいまちが実現できるとこのように考えております。貴重な質問ありがとうございました。

議長（松田翔太郎君） 31番。

31番議員（堀 友美さん） ありがとうございます。はやく、誰もが住みやすいまちになることを願っています。これで私の質問を終わります。

議長（松田翔太郎君） 次に、23番議員、中部中学校の村岡洋樹君の一般質問をお願いいたします。

23番議員（村岡洋樹君） 世界の平均気温が百年に一度上昇していると聞きました。そのことについて3つ質問をしたいと思います。まず、最初に、化石燃料の大量消費によるCO2の排出が地球温暖化の大きな原因の一つだそうです。

その中でも車の排気ガスの事をよく耳にします。排気ガスを少なくする車の使用を促進するような計画や取り組みをしていますか。していなければ、する予定はありますか。

次に車や道路の舗装についてですが、「排水性舗装」や「透水性舗装」が温暖化対策に役立つと聞きました。別府市でこの様な舗装をしている所はありますか。また、この様な計画をする予定はありますか。

最後に地球温暖化対策として、森林の保護が有名です。調査の結果、地球を直径1メートル球体のだと考えると、世界の森林の面積は約A3の紙1枚分、その中の約切手1枚分の面積の森林が一年間に失われている事がわかりました。このように急激に森林が減少している今、別府市では森林の保護を具体的に取り組んでいる人達

はいるのですか。いなければ、今後別府市はどのような政策をするつもりですか。
議長（松田翔太郎君） 生活環境部長。

生活環境部長（高橋 徹君） お答えいたします。

村岡君の言われるように、地球の平均気温は、徐々にですが上昇しております。二酸化炭素を中心とする、温暖化効果ガスの増加が一番問題になっているわけですが、これはご質問の中にもありますように、化石燃料の大量消費がひとつの大きな原因ですが、燃料だけでなく、ゴミの焼却、エネルギーの無駄遣い、それから二酸化炭素を吸収する森林の減少が温暖化を早めているようです。

また、クーラー排熱やコンクリートなどの過熱も、温暖化に拍車をかけているのが現状でございます。そこで全国的には、自然エネルギーの活用や冷房温度を抑制するための『クールビズ』の推進、ゴミの減少・リサイクル推進等循環型の社会の形成に一生懸命取り組んでいるところでございます。車の排ガスにつきましても、ハイブリット車の開発等で、排気ガスの少ない車の開発が進んでおります。また、壁面や屋上の緑化・緑地空間の確保など緑に対する取り組みも行われておりますし、別府市でも、『クールビズ』の取り組みや、公園や誕生の森の整備など、環境に配慮して事業を進めているところでございます。以上でございます。

議長（松田翔太郎君） 建設部長。

建設部長（金澤 晋君） 建設部の方からお答えさせていただきます。

排水性舗装や透水性舗装についてのご質問でございますが、自然環境を守るため、「水循環のサイクル」の一環といたしまして、道路に降った雨水を地下に浸透させることにより、地下の浸透水で地表面の温度を下げるという方法は、温暖化対策として有効だと思っております。

また、別府市では、大切な温泉の保護のためにも、雨水を自然の形で地下に浸透することが大事なことだと考えております。

そこで、別府市内の排水性舗装・透水性舗装の場所ですが、国道10号、九州横断道路、現在施工中の中央公民館前の通り等は、国と県で施工して頂いております。

市道では、幹線道路であります別府駅西口から山の手中学校前の青山通り、最近工事が完了した秋葉通りの大分銀行から山本病院までの間が施工済みでございます。今後幹線道路につきましては極力、透水性舗装、排水性舗装で計画していきたいと

考えているとこととでございます。以上でございます。

議長（松田翔太郎君） 観光経済部長。

観光経済部長（山川公平君） 森林の保護という視点でお答えいたしたいと思います。

自然、すなわち森林等を保護することが地球の環境を守るという考え方から、別府市では、「別府市環境基本計画」を策定いたしております。この中で、望ましい環境像を示すとともに長期的な環境保護計画を立てて、様々な行政を行っております。

具体的には、昭和49年に「別府市環境保全条例」という環境を保護するための規定をつくりまして、その中で、保護すべき地区や保護すべき樹木などの指定をし、「みどりの監視員」という人たちにより実態調査等が行われております。

また、地球温暖化対策とは異なりますが、「市有林監視員規程」というものがございます。市有林を火災から守る、盗掘等しないように監視をするなど、取り締まりをする監視員を置き、森林の保護に努めております。

以上でございます。

議長（松田翔太郎君） 市長。

市長（浜田 博君） 村岡洋樹議員の質問にお答えします。

今、世界中のいろいろなところで温暖化が原因となって異変が起こっております。去年のように台風が何回も日本に襲来しましたね。また、自然界で何かが起こっています。地球が暖かくなれば氷がとけ海面が上昇するだけではありません。私たちの食料の生産にも影響が出ております。大雨やかんばつで米や大豆、野菜などが思うようにできなくなったり、伝染病が発生したり、生物界でも種が絶滅したり大量発生することも考えられます。暗い話ばかりになりましたが、人間には、しかし他の生き物にはない知恵、こういう頭脳があります。すでに石油や石炭など化石燃料に代わる風力や太陽熱などの自然エネルギーを開発しています。家庭で使う電気製品なども省エネルギータイプのものが増えています。リサイクルも進んでいますし、これからも皆さんと一緒に知恵を出し合ってこの危機を乗り切っていかなければならないと考えています。

道路の舗装についても温暖化対策の一つに道路面の雨水を地下へ浸透させるということですね。これは村岡君、よく勉強したなと感心させられました。

別府市でも明治以前、雨水が自然に地下へ浸透していたものが、道路が舗装され

ましたね。川底まで舗装されました。そして高速道も出来て、山を切り、森林もなくなったという部分もあると思います。次第に市街化が進んで、雨水の地下浸透面積といいますかこれがせまくなったのではないかな。少なくなったと。さきほど建設部長が答弁したように、別府の場合、地下へ雨水の浸透が少なくなると、一番大切な温泉、これが枯渇をする、枯れてしまうというこんな問題がありますので、本当にこのことは真剣に考えていかなければいけない。深刻な事態も予測されるということでございます。いわゆる温泉というつまり泉源があるわけですよね。この泉源というのは地下に浸透した雨水が、30年、40年かかって温泉という特有の成分で泉源を保護しているわけですから、雨水が浸透しなくなると温泉が枯渇してしまう。別府は温泉観光都市ですから、この泉源がなくなると大変だという思いは全く同じであります。ぜひ、この泉源を保護している自然を大切に、緑を大切に、そして雨水をしっかり地下へ浸透させましょう、こういう気持ちを持っていただくことは本当にうれしいなと思っております。また、道路についても、できるだけ地下へ雨水が浸透するようなそういう施工を今、行っておりますのでよろしく願います。貴重な質問本当にありがとうございました。

議長（松田翔太郎君） 23番。

23番議員（村岡洋樹君） ありがとうございます。

別府市でもさまざまな地球温暖化対策を行っていることがよくわかりました。これで質問を終わりたいと思います。

議長（松田翔太郎君） 次に、10番議員、上人小学校の松木早紀さんの一般質問をお願いいたします。

10番議員（松木早紀さん） 留学生の人たちが気持ちよく暮らせるための工夫について質問があります。

私の住んでいる上人小校区には大学があって留学生の人たちも通っています。私には、留学生の人たちは大変そうだなあ、困っていないのかなあと思うことが3つあります。

一つ目は、住むところです。アパートを借りなければいけないのですが、学生さんなので、お金があまりなくて困っているのではないのでしょうか。

二つ目は食べ物です。留学生の人たちには、あわないと感じるものもあるはずで

す。スーパーに、外国人向けのコーナーがもっとたくさんあるといいと思います。

三つ目はかん板です。お店のかん板などは漢字がよく使われています。日本語がわかる人ならいいのですが、日本に来て間もない人にはわからないと思います。別府市では、留学生の人たちが、気持ちよく暮らせるために、どんな工夫をされているのですか。また、これからどんなことに取り組むのですか。答えをお願いします。

議長（松田翔太郎君） 観光経済部長。

観光経済部長（山川浩平君） 松木さんの質問で、留学生の低料金の住居について、それから外国語案内板について、留学生への取り組みについて3点ございましたので、3点ご説明をしたいと思います。

まず住居についてですが、確かに日本の家賃は高いと思われまますので、学生さんは2、3人で同じ部屋を借りたり、大学の寮や別府大学駅横にございますけれども別府市国際交流会館、京町にあります大分国際交流会館といった留学生用の宿舎に部屋を借りたりいたしております。また、市のほうでは、昨年度から市営住宅の一部も安く留学生さんに貸し出しをするという対応をいたしております。今後も市内で学ぶ留学生が増加されるということが予測されますので、このような宿舎対策には万全を期していきたいと思っております。

二番目の案内板につきましては、はじめて日本に来られた方それから、留学生の方については、非常にわかりづらいという面がございますので、別府市では観光案内板検討会といった会を開き、わかりやすい案内板を設置するようにいたしております。

次に、その他の支援としまして、別府市で新生活をする留学生に対しまして、生活ガイドブックというものを、英語・中国語・韓国語3ヶ国語で作成いたしております。これをもとに、留学生の方々にいろんな形でのサポートに努めていきたいと努力いたしております。以上でございます。

議長（松田翔太郎君） 市長。

市長（浜田 博君） 松木早紀議員の質問にお答えいたします。

現在、別府市では77の国から2,400人余りの留学生のみなさんが別府市で生活をして学んでいただいております。人口比率では東京都に次いで2番目ということでございまして、それだけ留学生が多いという県でございます。留学生への支援とし

て今、奨学金も交付しておりますし、住居の問題も、市営住宅を含めて支援を行っておりますし、留学生の方々が暮らしやすいまちにしていきたいとこのように考えております。

また留学生が皆さんの学校にも訪れて、交流授業を行う国際理解教室も行っています。様々な国の異文化にふれまして、お互いの理解をはぐくんで、将来皆さん方のお役に立てればと思っております。留学生を想う気持ちをどうぞ大切にしてください。貴重なご質問ありがとうございました。

議長（松田翔太郎君） 10番。

10番議員（松木早紀さん） よくわかりました。ありがとうございました。これで私の質問を終わります。

議長（松田翔太郎君） 次に、29番議員、鶴見台中学校の村田憲人君の一般質問をお願いいたします。

29番議員（村田憲人君） 僕は別府の過疎化対策について質問があります。

別府は、いたるところに温泉があり、地獄めぐりなどの観光スポットもある、とてもいいまちだと思います。

しかし近年、別府の過疎化が進行しているように思えます。

ある資料には、別府市の人口は1980年代から年々減少傾向にあるとされています。その反面、別府の高齢者の割合は、年々高くなってきています。つまり、若い人たちが、別府を去り、都会へと移り住んでいるのです。

社会科の時間に、過疎化は若い人たちが、職場や、娯楽を求めるために都会に出て行く現象であると学習しました。

別府から若い人たちがいなくなってしまうということは、別府には、魅力のある職場や、若者をひきつける娯楽施設が不足しているのではないかと考えられます。

別府に住んでいることを誇りに思う僕にとって、このことは、大変不安に感じられます。このままでは、過疎化がすすんで、僕たちの別府がすたれてしまうかもしれません。

そこで、質問です。

別府の過疎化対策についてどのような事を考えていらっしゃいますか。具体的に教えてください。お答えをお願いします。

議長（松田翔太郎君） 企画部長。

企画部長（亀井 勇君） お答えいたします。

私からは別府市の人口の移り変わりについてご説明をさせていただきます。まず、昭和55年、1980年に136,485人、これが今年の4月末には、123,275人ということで、この25年間で約1万3千人の人口が減っているという状況でございます。また、一方、別府市の人口に占めます65歳以上のいわゆるお年寄りの数の割合でありますけれども、これを高齢化率と呼んでおります。高齢化率につきましても、年々増加をいたしまして、今年の3月末で約25%、これは4人に1人が高齢者となっている状況でございます。

この人口問題、また過疎化対策につきましては別府市だけではなく、全国の大部分の都市が同じような悩みを持っているというのが現状でございます。以上でございます。

議長（松田翔太郎君） 市長。

市長（浜田 博君） 村田憲人議員の質問にお答えいたします。

村田君の別府に住んでいることを誇りに思う、感じる、だからこそ若者が別府を離れていくことを防ぐ対策を考えて欲しいというこの言葉、提言といたしますか、本当にうれしく思いました。

その対策として、今別府市では、3人目以降の子どもに対して、祝い金を出すという「湯のまちべっぴ子誕生祝金」の事業を行っています。

しかし、最も重要なのは若者の働く場所の確保のための企業を育成したり、誘致をしたりすることが大切ではないかと思えます。魅力のあるまちづくりが若者定住に必要なものと考えております。別府市には従業員を千人、二千人、三千人と抱える大企業はありません。しかし、日本一の温泉を持つ観光地だということは誇りに思えます。この特色を生かして、若者たちが「別府に住みたい、別府に戻りたい、別府に帰りたい」とそういう気持ちを持ってもらえるようなまちづくりをしなくてはならないと思っております。市民と私たちが一体となって進めていかなければならないのではないかと考えております。今、協働のまちづくりというものを私は使わせてもらっている。協力して働くと、市民と一緒にがんばっていきましょうという気持ちでございます。具体的には観光客だけでなく、市民の皆さんがとも

に楽しめる例えば、祭りやイベントの開催ですね。このことも市民のみなさんが参加して楽しかったなと、お客さんに来てくださいよ。別府はこんな祭りがあります。こんなイベントがあるんですよ、そういう口コミでどんどん言える様な、まちづくり、まち、お祭り、またイベントにしたいなという思いです。今年の夏祭りいかれました。すごい賑わいでしたね。夕涼みワイワイ市、そして屋台村という、皆さんには言葉が難しいかな。屋台村ってなにっていう感じでしょうか。私たちには本当に懐かしい屋台村が出現いたしました。そしてSPAビーチでは、SPAビーチフェスタということで、あの留学生の皆さんや若者がゆかたがけでたくさん集まって来ましたよ。ぜひ楽しんでいただけたかどうかわかりませんが、これからももっともっと、参加してよかったな、楽しかったなという若者の居場所づくりにも真剣に考えていきたいと思っています。

また、別府市はONSENツーリズムという横文字のローマ字のONSENというのを使って、新聞でみたかな。ONSENというのはローマ字で書いて、いわゆるホットスプリングのお風呂の温泉と「音の泉」と書きますよね、音楽ミュージックなんです。この音楽文化のただようまちにもしたいという私の思いもあります。という意味でONSENツーリズムという政策を進めています。また、別府市内で常に音楽が身近にあるという環境をつくっていききたい。8月7日にはまた、BEBEPPUジャズインというのが別府公園でありますから、ごらんいただきたいと思っています。

若者がたくさんいるまちは、活気があると思いますね。だから若者が別府を離れていくんじゃなくて、別府に帰りたい、別府がいいなとか思うようなまち、活気のあるまちにしていきたいとこのように考えております。貴重な質問ありがとうございました。

議長（松田翔太郎君） 29番。

29番議員（村田憲人君） ありがとうございます。これで僕の質問を終わります。

議長（松田翔太郎君） 次に、16番議員、東山小学校の飯田麻貴さんの一般質問をお願いいたします。

16番議員（飯田麻貴さん） 私は、東山小学校の飯田麻貴と申します。別府市の川の環境と環境保護の取り組みについて質問したいと思います。

私は昨年、「総合的な学習の時間」に東山の川について調べました。きっかけは、理科の勉強で使う「メダカさがし」でした。東山は、別府市の山間部にあり、自然に恵まれた所です。私たちは、メダカくらい、すぐに見つかると思っていました。ところが2時間ほど、いろんな場所で探してみましたが、メダカの姿を見つけることはできませんでした。

私たちは、東山の川の環境が気になり、水質を調べてみることにしました。源流から下流まで調べてみると、下流に進むほど川が汚れていることがわかりました。その主な原因は、生活排水とコンクリートによる河川工事だと思いました。もしそうなら、環境を取り戻すのは私たち人間の責任だと思います。

別府市は、海と山に囲まれた自然に恵まれたまちです。ぜひ自然環境の保護に力をいれたまちづくりを行っていただきたいと思います。

そこで質問ですが、別府市内の川の汚染状況はどの程度なのでしょう。また、川の環境保護に向けた具体的な取り組みがあれば、お聞かせください。

議長（松田翔太郎君） 生活環境部長。

生活環境部長（高橋 徹君） お答えいたします。

東山の川でメダカが見つからなかったということで、メダカを今、探すのは大変です。メダカがいなくなった原因につきましては、議員さんが言われましたように、コンクリート製の水路が多くなったり、除草剤などの薬物を使うと、それから生活排水を川に流すということが原因でございます。特に、川の堤防や底がコンクリートで張られると、メダカのえさになる生物が住めなくなります。このようなことが原因で、いろいろ重なりましてメダカがいなくなり、フナやカエルなどもいなくなっているのが現状でございます。

別府市では年に4回ですけど、市内の河川6箇所水質検査を行っています。その中でも平田川は、水温が非常に高く、冬でも20度以上あります。生物がすむには厳しい環境にあります。

川をきれいにするためには、雨水以外のものが流れ込まないようにするということが一番大事なことなので、公共下水道の設置などを今一生懸命進めているのが現状でございます。以上でございます。

議長（松田翔太郎君） 建設部長。

建設部長（金澤 晋君） お答えいたします。具体的な取り組みでございます。

東山の自然に恵まれた地域の川で先ほど言われたように、メダカが見つからず、環境保護について考え、その原因が生活排水による川の汚れや、コンクリートの河川工事であると思いついたのは真剣に自然環境について勉強した結果だと非常に感心しているところでございます。

建設部といたしましては、河川工事を担当しております。以前は川の氾濫から家や田畑等、人命、財産を守る防災面に重点を置き、河川の改修を行ってきたところでございます。コンクリートを張り詰める護岸工事が盛んに行われておるところでございます。その結果、飯田さんが指摘するように、川に植物や生物がすめなくなったという形でございます。

このことを受けまして、河川を守る法律に河川法というのがございますが、その河川法が平成9年に改められております。「河川の持つ多様な自然環境や水辺空間に対する国民皆さんの要望の高まりに応えるため防災面に加え、水質ややすらぎの空間、動物や植物の生物の保護育成をすること」となっております。この法律を受けて、全国的に河川工事では、以前のコンクリートを張り詰める護岸工事を改めまして、多目的型の川づくりといたしまして、川を自然の姿に戻すため、草や木がしげり、魚がすめるというような、魚のとおり道の設置など新たな工夫をして河川整備が行われているところでございます。

以上でございます。

議長（松田翔太郎君） 市長。

市長（浜田 博君） 飯田麻貴議員の質問にお答えします。

別府市は「海と山と温泉」、世界にもまれな自然環境に恵まれた観光都市でございます。とりわけ東山地区はね、自然を代表する地域だと思っております。

この自然環境を守るために、飯田さんの質問は別府市にとっても大変重要な問題であるというふうに認識をいたしております。

河川の自然環境保護でございますが、川からメダカがいなくなった原因として考えられるということで、先ほどお話がありましたね。まさに生活排水とコンクリート護岸、それから田畑にまかれる農薬等の原因があるかと思いますが、これらはすべて私たち人間が原因をつくっているわけで、河川整備については生物の連鎖を考

えるときに、川を元来あるべき自然に近い姿にかえさなくちゃいけない。戻さなくちゃいけない。植物、生物の豊かな水辺空間をつくることで、メダカも戻ってくるんだ、すめるようになるんだと私も思っております。

今後は河川工事については、このように多目的型の川づくりということを中心に進めていきたいと思っております。

今後とも別府の自然環境の保護に関心を寄せてほしいなと心から願っております。貴重なご質問ありがとうございました。

議長（松田翔太郎君） 16番。

16番議員（飯田麻貴さん） ありがとうございました。これで私の質問を終わります。

議長（松田翔太郎君） 次に、15番議員、大平山小学校の稲村竜大君の一般質問をお願いいたします。

15番議員（稲村竜大君） 6月の初め、火売神社にスケッチに行きました。神社の森は、とても木が多く、空気がきれいな感じがしました。とても気持ちよくスケッチができました。

ぼくの家は、春木川のすぐそばにあります。春木川はゴミがあって汚れています。ぼくは以前、家族で春木川の上流に行きました。春木川の上流には、ヘビン湯がありました。とても、水がキレイでビックリしました。周りは、木が多く、空気がきれいだったのを覚えています。別府にもこんな所があるんだなーと思いました。

上流だけではなく、中流や下流も緑いっぱい、キレイな川にしたいです。

今年、別府市では、「緑の基本計画」を、策定するようですが、市内を流れる川を中心に、緑いっぱいのまちにしていくといいと思います。まちの人がもっとくつろげる川にしていけばいいと思います。ぼくもやれることがあったら、やろうと思います。

議長（松田翔太郎君） 建設部長。

建設部長（金澤 晋君） お答えいたします。

別府市では、平成17年度と18年度の二カ年にわたりまして「別府市緑の基本計画」を策定する計画でございます。

森や林の緑には、「空気をきれいにする」、「動物が過ごしやすい場所を提供する」、「公園などの憩いの場の提供」、さらには「火事などの災害を防ぐ」、「美

しいまちをつくる」といった色々な役割がありますが、そういった緑がどういうところに、どの位あったらよいのかというのを、市民の皆さま方と一緒に考えて、これからの緑あふれる美しいまちづくりの方針を示していきたいと考えているところでございます。

基本計画を策定するときには、多くの市民の皆さんのご意見を反映させるためにも、アンケート調査や意見交換会といったことなども行う計画でございます。

稲村君もぜひ色々な考えを出してほしいなあと考えているところでございます。

議長（松田翔太郎君） 市長。

市長（浜田 博君） 稲村竜大議員の質問にお答えします。

稲村君は、春木川の上流に行って、多くの緑と美しい川や空気に触れまして、とても気持ち良かったのではないかと思います。

別府市のまち全体が、そんなふうには緑が多くて、美しいまちになると本当に良いなと思います。でも最近、森や林などの緑は、まちの中から消えているといいますが、年々少なくなっていますね。大切な緑が無くなっていくのは、とても私も残念なことだと思っています。

そこで、今回「緑の基本計画」の話が出ました。このことに稲村君よく気がつきましたね。関心を持っていただいて本当にありがとうございます。海や山に囲まれ、湯けむり立ち上る美しいまち、住んでいる人も訪れる人も皆が楽しいそういう別府市にしていくために、どうしたらよいか、このことを皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。稲村君もぜひ、意見を出してください。

貴重な質問ありがとうございました。

議長（松田翔太郎君） 15番。

15番議員（稲村竜大君） ありがとうございました。ぜひ緑いっぱいのもちにしてください。これで僕の質問は終わります。

議長（松田翔太郎君） 次に、27番議員、朝日中学校の近藤 壮君の一般質問をお願いいたします。

27番議員（近藤 壮君） 昔、九州の温泉地といえば、別府といわれるくらい有名だった別府が今では黒川温泉、湯布院温泉に人気をとられ別府市で生まれ育った自分としてはとてもさびしい思いをしています。湯布院や黒川がまちぐるみで、観光産業

を盛り上げ、現在のような成功をおさめていると聞いています。これから別府市が観光地としてかつてのようなにぎわいを取り戻すために、別府市全体で今後どのように取り組んでいくようにしているのか教えてください。

議長（松田翔太郎君） 観光経済部長。

観光経済部長（山川浩平君） それでは、今後の観光振興の取り組みについてということで、お答えいたします。

市では、別府の観光、以前のにぎわいを取り戻したいということで、昨年9月に「別府観光推進戦略会議」という組織を立ち上げました。これにつきましては、専門的ないろんな方々に入らせていただきまして、今後のことについて振興策をご協議をいただきました。それをまとめていただきまして、「別府観光推進策に関する答申」という、いわゆる提言というかたちで市の方にいただきました。

この答申の中では、短期、中期、長期にわたりまして、25件のプロジェクトの計画をいただきまして、そのうち16件を、現在、市の方ですでに推進をいたしております。本年度は、特に、「駅前のへそづくり」ということで、駅前モニュメント構想ということで湯だまり等々今計画いたしておりますけれども、そういう具体的な取り組みをいたしております。

答申の中では、基本方針を「まちづくり」とするツーリズム振興への転換という位置づけをいたしております、基本戦略として5つの柱をあげております。その中には皆さんご存知のように、別府八湯を中心としたまちづくり、それから2点目が、別府にあります特有の温泉資源の多角的な活用による滞在魅力づくり、3点目が、歴史風土と自然環境を生かした個性ある都市景観づくり、それから4点目が文化芸術とスポーツ交流による国際都市としての魅力づくり、それから5点目が総合的、効果的な情報発信による別府ブランドの確立ということでございますけれども、これらを具体的に推進するために今年の4月から「国際交流」それから、「観光」「まちづくり」「温泉」一つの核になります課を一つにまとめまして、ツーリズムを推進していこうということで、ONSENツーリズム局が設置をされましたので、その中で今後新しい形で、取り組みをしていきたいと思っておりますので、近藤君にも今後の観光振興の事業についてご支援いただきたいと思います。どうもありがとうございます。

議長（松田翔太郎君） 市長。

市長（浜田 博君） 近藤壮議員の質問にお答えいたします。

観光経済部長からツーリズムと言う聞きなれない言葉が出て、先ほども言いましたが、少しわかりにくい部分もあったかと思いますが、ツーリズムというのは、誘客キャンペーンやイベント等といった従来型の観光振興の枠組みにとらわれず、「都市計画」「まちづくり」「健康づくり」「福祉と医療」幅広い観点からあらゆる産業を総合産業として、解釈をして、観光に取り込んでいく、まち全体の魅力アップを基盤として交流人口、観光の人口を増やしていこうとこういうものでございます。近藤君のすぐ近くにある当たり前と思っているものも、他所の人から見たらとてもすばらしく、価値あるものがたくさんあると思います。こんこんとわき出ている温泉、あまりにもたくさんある温泉、あまった温泉がどんどんあなたの校区では外に出てますよね。側溝から煙があがっているでしょう。そういう状況を見ていますから、ついついその価値をわすれそうになるんですね。その価値というかね。昔は傷ついた人とか、けがをした人ね。それから休養を要する人が明日のいやしのために訪れてきたんですが、そこには心身ともに現在の医療とか健康とか福祉へとつながる価値に相当するものであったと私は、思われます。そして忘れてはならないことが、温泉だけではなくて、そこにある自然と生命のあるものすべてが一体となって私たちが住む別府の価値として存在をしていたんだと、そしてこれらが歴史・文化となって私たちの宝物につながっているということを確認をしたいと思います。これらが観光資源といわれる別府の魅力であります。

とりわけツーリズムは、住んでいる私たちがこの温泉を含む自然・環境・文化・そして歴史に誇りを持ちながら、訪れる人が見て「うらやましいな」と「いいな」とそういう憧れを感じていただけるようなそういうまちづくりをすることが主な考え方であるということを知っていただきたいと思います。別府は、今、世界に誇る温泉、その温泉を生み出す自然と環境、これらから生じた文化といいますが、そういう歴史を総じての温泉と町の中に音楽があふれるまちづくり、これをつくり出そうというのが温泉、「Hot spring」の温泉と、音の泉の温泉。この二つが二本柱としてローマ字のONSENツーリズムということを推進しているということをご理解をいただきたいと思います。

ONSENツーリズムの推進の方策として部長から今、戦略会議の答申の中で、ありましたプロジェクトの取組状況の説明がありましたから、繰り返しません、そのほか市では、国の「まちづくり交付金」、新しくできた交付金があるんです。これを近藤君の住んでいる鉄輪地区の整備を行うというようにしています。それは、別府のあらゆるところでツーリズムの芽として「まちづくり」が住民の皆さんがグループによって分かれて行われております。160 団体以上できました。そういう人たちが本当にボランティアの気持ちで、別府から新しい「まちづくり」をするんだと、自分の地域は自分たちでつくるというそういう試みの中で、新しい波が起こりつつある、動いているという声が届いていると思います。そういう意味でまちづくり交付金が、九州で初めて別府市におりたわけですから、そういう意味でも皆さんが立ち上がってくれたなど、別府の市民が本当にかんばろうという気持ちになってきたなということがうかがえると思います。

まちも、海も変わっていきます。別府が大きく変わります。その中でいきいきと近藤君や私たち自体が誇りを持ち、まちを愛していけば必ずにぎわいのあるすばらしいまちに戻ってくる。再生されると考えておりますのでよろしくお願いします。

貴重な質問ありがとうございました。

議長（松田翔太郎君） 27番。

27番議員（近藤 壮君） ありがとうございました。近い将来別府市が九州一、日本一の温泉地になることを願っています。これで僕の質問を終わります。

議長（松田翔太郎君） 次に、8番議員、鶴見小学校の大塚衆生君の一般質問をお願いいたします。

8番議員（大塚衆生君） 福祉のバリアフリーについて質問をします。これからの別府市について検討する中で私は、お年寄りや車イスに乗っている方が、住みよいまちになるにはどうすればいいのか、議員のみなさんがどのように考えているかおうかがいしたいと思います。

一つ目に、バリアフリー住宅という家がありますが、別府市ではそういう住宅をつくっていますか。また、ある場所はどこにあるのか教えてください。

二つ目に、観光施設面でのバリアフリーについておたずねします。私たちは長崎に修学旅行に行きましたが、グラバー園に動く歩道がありました。長崎も別府と同

じように坂道が多い所で、お年寄りや車イスの方にとって活動しづらい環境にあるため動く歩道が設置されたのではないかと思います。別府市の観光施設の中で動く歩道を建設する計画はあるのでしょうか。以上の二点について、よろしく願います。

議長（松田翔太郎君） 福祉保健部長。

福祉保健部長（岡部光端君） お答えいたします。

大塚君の質問には福祉、建設、観光の部門に関係がありますので、まず福祉の部門からお答えいたします。

別府市では、昭和48年に国から「身体障害者モデル都市」の指定を受け、障害者の方々に色々な事業を行ってきました。

その1つとして、高齢者や重度の障害を持つ方が住んでいる家について、使いやすいように玄関、トイレ、風呂、居間などを改修するときはその費用を補助する制度をつくっております。以上です。

議長（松田翔太郎君） 建設部参事。

建設部参事（松岡真一君） 建設部からバリアフリー住宅に関してお答えいたします。

まず、どのような住宅がバリアフリー住宅かということでございます。そのご説明をいたします。三つの条件があります。一つ目は、住宅内の廊下や階段、お風呂場やトイレに手摺がついているかということです。二つ目は、家の中で車イス等でも簡単に移動ができるように廊下も含めて広がっているかということです。

三つ目は転ばないようにするために段差をなくしているかということです。

この3つをそろえている住宅をバリアフリーを取り入れた住宅とっております。

現在、別府市では住宅に困っている人のための市営住宅がありますが、現在41団地2,767戸の市営住宅を建てて管理をしております。このうち、市営住宅でのバリアフリーに対応した住宅は、平成元年以降に建設いたしました、湯都ピア浜脇の横の浜脇高層住宅、それから浜脇再開発住宅、松原公園北側の松原住宅、それから西小学校北側の真光寺住宅、それから境川沿いの野口原住宅の5箇所の、合計207戸の住宅でございます。各住宅にはエレベーターを設置してありまして、各戸には手摺を付れたり、段差をなくしたり、外から車イスで部屋の中まで行けるように廊下を広くするなど、バリアフリーに心がけております。そして、そういう風な心がけ

で建てております。

その他に、市営住宅には車イスでしか生活できない人のための住宅といたしまして浜田住宅に6戸など、計20戸の住宅を建てて管理をして、そこに住んでいただいております。以上です。

議長（松田翔太郎君） 観光経済部長。

観光経済部長（山川浩平君） 観光面でのバリアフリーについて、お答えを申し上げます。 「動く歩道」の件でございますけれども、「動く歩道」の設置については残念ながら現在、計画いたしておりません。しかし、障害のある方のために段差の解消等々、各施設とも解消に向けて努力を現在もいたしておりますけれども、民間では、車イスの方のためのリフトの設置。これは竹の井ホテルさんにございますけれども、それとお風呂場等もバリアを無くすフロアにしたとこういう施設もございます。これは杉の井ホテルにございますけれども、また、乳がん等で一般の方とお風呂に入れられないというような方のために配慮した「ほっとマンマの日」というのを設けまして温泉を楽しんでいただけるような旅館の施設もございますので、そのような活動も民間でいたしております。

いずれにいたしましても市と観光業界一体となって、このようなお年寄りや障害のある方のための施策について努力をしてそれが観光地づくりへつながっていくようにがんばっていきたいと思いますのでよろしく申し上げます。

議長（松田翔太郎君） 市長。

市長（浜田 博君） 大塚衆生議員の質問にお答えいたします。

大塚君が住宅のバリアフリーについて関心を持たれていることから、お年寄りとか体の不自由な方に対して、本当に優しい心の持ち主なんだということがよく分かりました。

人間は必ず年をとり、若い時にはなんでもなかった階段や数センチの段差が障害になってきます。この障害が少しでも体の負担にならないように、そういう生活の場が必要だというふうに思います。

高齢者に優しい住宅の問題は、健康な人にも住みやすい家と思っていますので、これからも「高齢者を含めて誰にでも優しい住宅」というのは考えていかななくてはいけないと思いますし、改造とか特別の設計を必要としないそういう形で、最初か

ら全ての人々が利用しやすく設計することを「ユニバーサルデザイン」という言葉をつかいましたね。このユニバーサルデザインを取り入れた市営住宅にしていきたいとこのように考えています。

障害を持つ方やお年寄りの方が健常者と同じように普通の生活、旅行も含めてでございませうが、できるようにしていくことはとても大切なこととございませうし、そのために障害を持つ方等にとって行動が制限されるバリアをなくしていかなければなりません。こう思ひませう。

これからは大塚君も建物のバリアフリーだけではなく、困っているお年寄りに優しくしたり、また友達と仲良くする「心のバリアフリー」にも関心を持っていただき、毎日の勉強やスポーツにも汗を流してがんばってください。

貴重なご質問ありがとうございました。

議長（松田翔太郎君） 8番。

8番議員（大塚衆生君） ありがとうございます。別府市のバリアフリーに対する取り組みがよくわかりました。これで、僕の質問を終わります。

議長（松田翔太郎君） 次に、21番議員、北部中学校の松川由衣さんの一般質問をお願いいたします。

21番議員（松川由衣さん） 私は福祉と道路整備について質問します。

最近、別府市には別府アリーナのような大きく、費用のかかる建物がつくられています。それらの建物は、私たちにとても便利なのですが、それよりももっと身近な所に、不便を感じる部分があるのではないのでしょうか。

例えば、私たちが普通に歩いている道にもそのような問題がひそんでいると思ひませう。舗装していない道は、私たちがのような健常者が歩いても気にならないのですが、同じ道を体の不自由な人や車イスを使っている人々が歩いたら、足場が悪く、歩行するのに困難だと思ひませう。私が祖父の車イスを押しているとき、道路がかたむいていて車イスを押すのにも、一苦労でした。乗っている人にとっても怖いと思ひませう。私は福祉のための点字ブロックや横断歩道の音声案内などの施設の状況を知り、車イスを使っている人や体の不自由な人の立場になって、そういう設備をさらに充実させてほしいと思ひませう。大きく費用のかかる建物をつくるのはいいのですが、私たちが普段使っている道のような細かい所まで目を配ってほしいと思ひませう。

す。

議長（松田翔太郎君） 建設部長。

建設部長（金澤 晋君） お答えいたします。

まず最初に別府市の市道の概要でございますが、総延長は約632 kmとなっており、そのうち、松川さんがご指摘の未舗装道路は主に山間部ですが、全体の21.5%、約136 kmとなっております。市街地で車の通る道路では未舗装道路はないと思っておりますが、舗装の状態が悪い箇所、車イスがかたむくようなカマボコ状の道路があることは認識しているところでございます。

そこで、建設部ではさきほどの堀友美さんのご質問に答弁いたしましたが、平成12年に制定の交通バリアフリー法の本質である高齢者、身体障害者等、誰もが安心して歩ける歩行者空間の整備に向けて、北浜周辺、青山通り、べっぴアリーナ周辺、亀川の太陽の家の前通り、歩行者にやさしい道路整備を行っております。今後とも、道路整備を行う場合は歩行者にやさしい道路整備を進めていきたいと考えているところでございます。以上でございます。

議長（松田翔太郎君） 市長。

市長（浜田 博君） 松川由衣議員の質問にお答えします。

大きな建物も必要ですが、市民の皆さんが普段使っている道路など細かな所にも目を配って欲しいという質問だったと思います。松川さんの言うとおり道路の問題は市民の皆さんには毎日使う最も身近な問題だと思います。

この道路を通して、松川さんはおじいさんの車イスを押してみたり、また体の不自由な人や車イスの人等のことを考えて、私は質問されたと思っております。おじいさんや身体障害者を思う優しい気持ちを大切にしてください。道路の整備についてはさきほど建設部長がお答えしましたように、今後とも、歩行者にやさしい、そういう視点で道路整備を進めたいと考えております。

貴重な質問ありがとうございました。

議長（松田翔太郎君） 21番。

21番議員（松川由衣さん） ありがとうございました。車イスを使っている人や体の不自由な人たちが、安全に歩行できるようにと思っております。これで私の質問を終わります。

議長（松田翔太郎君） 次に、14番議員、緑丘小学校の来司優子さんの一般質問をお願いいたします。

14番議員（来司優子さん） 私は別府のまちが大好きです。山や海が近くにあり景色がとてもきれいで、温泉もたくさんあり、多くの人々がなごめるまちだからです。

でも私の住んでいる緑丘小校区には、気になる道路や危険な林があります。学校の前の歩道には段差があって、荷物を持っている人たちや乳母車を引いているお年寄りがその段差につまずき困っている姿を何度か見かけました。ぜひ、小さい子どもからお年寄りまで安心して歩ける歩道づくりをしてほしいと思います。また、学校近くの亀の井バス前の林は、以前よりは、整備され、きれいになりましたが、歩道との間に溝があり、小さい子どもが落ちたりして大変危険です。そこにはゴミや空きかんもたくさん投げ込まれています。林を広い公園にして、子どもが遊べる遊具やベンチ、ごみ箱を設置したり、夜でも安心して歩くことのできる街灯をつけてほしいと思います。

議長（松田翔太郎君） 建設部長。

建設部長（金澤 晋君） お答えいたします。

まず、通学路についてのご質問でございますが、緑丘小学校の前の歩道の段差のことと、バス会社前の歩道に溝があり、小さい子どもが落ちていたりして、危険とご指摘でございますが、歩道の段差につきましては、現地を調査してそのような場所がありましたら、アスファルト舗装等ですり付けを行いまして、早急に改良したいと考えているところでございます。バス会社前の歩道との間の溝については、ふた掛けをするか防護柵等をするか、どちらが有効なのかを検討をしていきたいと考えております。

次にバス会社前の林の件ですが、ご指摘の林につきましては、実相寺中央公園の区域内にありまして、この公園は、来司さんもよくご存知のことと思いますがサッカー場や弓道場、野球場、多目的広場といった運動施設を中心とした公園として整備を行ってきております。弓道場西側の林については、周囲からの見通しが良くなるように、縦の市道に面した部分の公園内の歩道整備をしておりまして、平成17年度には北側の公園内の遊歩道を整備するように予定しております。

さらに、林全体を公園にしてほしいということでございますが、この林の西側部

分には、まだ市のものになっていない個人の方の土地がございますので、これらを含めまして自然林を活かした利用方法を検討してまいりますので、もう少し時間をいただきたいと思っております。以上でございます。

議長（松田翔太郎君） 市長。

市長（浜田 博君） 来司優子議員の質問にお答えいたします。

来司さんのご指摘については、さきほど建設部長が答弁しましたように、早速現地調査をして対応していきます。

また、来司さんは、小学校の最上級生として、お年寄りや小さい子どもの困っているのを見て、心を痛めている優しい心の持ち主だと感心しております。この思いやりの心をぜひ大切にしてください。

今後とも、通学路等で気が付いたことがあれば、学校の先生やご両親へ相談するか市役所へ連絡していただければありがたいと思います。

次のバス会社前の林につきましては、市内の中心部に残された数少ない雑木林といたしますか、照葉樹林でございます。

その林を安心して遊べる公園にしてほしいとのことですが、もっともだと思えます。さきほど建設部長からも答弁させていただきましたが、一部、市のものになっていない土地がありますので、すぐという訳にはまいりませんが、努力をしたいと思えます。市としましても、現在貴重な自然林を活かして安心して利用できる方法はどのようなものがあるのかこういうことを考えております。

緑丘小学校の先生方のご意見も聞きながら、検討していきたいと思えます。

今しばらく、お時間をいただきたいと思えます。

学校へ毎日通っている通学路の歩道について、貴重なご質問いただきました。ありがとうございました。

議長（松田翔太郎君） 14番。

14番議員（来司優子さん） ありがとうございます。これで私の質問を終わります。

議長（松田翔太郎君） 次に、19番議員、青山中学校の水本枝理さんの一般質問をお願いいたします。

19番議員（水本枝理さん） 低料金で使えるバスを充実させられないかという質問をします。現在、私がよく使うバスは、バス停4区間の短い距離ですが、片道160円かか

ってしまいます。場所によって差はあるのかもしれませんが、この料金では、気軽に利用しようとは思えません。私たちのような生徒であれば、バスを使わずに歩くこともできます。しかし、車を運転しない人や、お年寄りや、坂道ばかりの道を歩くのは大変ではないでしょうか。

また、別府は観光都市でもあり、観光客もたくさん来ます。その交通手段としても、タクシーよりも、私たち別府市民が使うのと同じバスを利用してもらった方が、より別府を楽しんでもらえることと思います。大学生や海外からの留学生にとっても日常使いやすい低料金のバスが充実すれば、もっと住みよいまちになることと思います。

今のバスの料金設定がどのようにされているのか、まちづくりのひとつとして、別府市は輸送手段としてのバスの活用をどのように考えているのか、お聞かせください。

議長（松田翔太郎君） 企画部長。

企画部長（亀山 勇君） お答えをいたします。

私からはバスの料金設定についての考え方についてご説明をさせていただきます。余談でございますけれども、日本でバスが初めて走ったのが明治36年9月20日となっております。これは、京都市というふうに聞いておりますが、この日を毎年バスの日と定めているということでございます。このように長い歴史の中において、多くの皆様方が利用してきた交通機関を公共交通機関と呼んでございますけれども、この料金設定につきましては、水本さんご指摘のように、多くの皆さんの生活に直接影響を与えるということの中で、料金を新しく決める場合、設定する場合、あるいは、料金を改定、変更する場合につきましては、国、国土交通省の方に届出をし、そして、承認を受けるというような手順になっているところでございます。以上でございます。

議長（松田翔太郎君） 市長。

市長（浜田 博君） 水本枝里議員の質問にお答えをいたします。

水本さんの考えは、低料金のバスを市内に走らせれば、お年寄りや、留学生や観光客の皆さんも利用しやすくなって、交通渋滞の緩和ができるんじゃないか。さらには環境保護にも結びついて、住みよい別府市になるのではないかとというすばらし

い提言だと思っております。

確かに坂道の多い別府市では、徒歩や自転車では移動が大変でございます。たくさんの方が定期バスに乗ってくれば、バス会社の方も料金を値下げできるんじゃないかと採算が取れるのではないかなと、このように考えております。

別府市では、今、採算のとれないバス路線が廃止されないための方策を一生懸命考えております。いわゆる利用者は多く見込めないが、徒歩や自家用車で移動ができないお年寄りの皆さんがおりますね。そういう皆さんが生活に必要である山間部のバス路線というのがあります。山の方のバス路線。バス会社の赤字をおぎなうために、別府市から「生活バス路線維持補助金」という形でバス会社に交付をしております。そしてバスの運行が続けられるように、やめてしまわないように、お願いをしているわけでございます。ぜひ、そういうあたたかい気持ちで、本当に素晴らしい提言だと思いますが、バス会社の採算がとれるように、しっかりバスを利用してもらうように皆さんがまた考えていただきたいなと思います。貴重な質問ありがとうございました。

議長（松田翔太郎君） 19番。

19番議員（水本枝理さん） ありがとうございました。別府市が誰もが、活発に移動しやすいまちになることを祈っています。これで私の質問を終わります。

議長（松田翔太郎君） 次に、6番議員、青山小学校の浅井里奈さんの一般質問をお願いいたします。

6番議員（浅井里奈さん） 安全なまちづくりについて質問します。年々、私たちを取りまく社会状況は、不審者等の出現で、こわくなってきています。別府市から、私たちの安全を守るために、防犯ベルと刺股をいただきました。防犯ベルのおかげで安心して、登下校できています。

学校では、いざという時に落ち着いて行動でき、命を守れるように避難訓練を年4回しています。先日の訓練では不審者が教室に入り、訓練とわかっていても恐くて全身が震えました。青山小では、5月にPTAと地域の方々が私たちを守るために、青山サニー隊を発足してくれました。かどかどに立っているオレンジ色の帽子をみると私たちを守ってくれる太陽のようで「地域の宝として守られている私たち」を自覚できました。

観光都市別府には、外国のお客さまもたくさん訪れています。みんなの安全を守り、安心できるまちづくりに、どう取り組んでいるかお聞かせください。

議長（松田翔太郎君） 生活環境部長。

生活環境部長（高橋 徹君） お答えいたします。

浅井さんのおっしゃるとおり、今の社会は非常に残念なことです。安全とはいえないのが現状でございます。もしもの時のために訓練を重ねることは、大切なことだと思います。また、PTAと地域の皆さん方と安全パトロール隊をつくっていただいているのも非常に良いことだと思っております。今、市内には16のパトロール隊ができています。

別府市には市民だけでなく、たくさんの観光客や留学生の皆さんが訪れておりますので、安全なまちづくりのために「別府市生活安全条例」というのを、別府市の決まりとして、定めております。警察を初め、関係機関と協力して、話し合いや広報活動を通じまして安全をどうしたらいいかということ協議しているところでございます。また、警察、別府市、市内の各自治会と協力して「別府市防犯協会」という組織もつくって身近な防犯活動に取り組んでいるのが現状でございます。以上でございます。

議長（松田翔太郎君） 市長。

市長（浜田 博君） 浅井里奈議員の質問にお答えいたします。

犯罪というのは、思いもよらない時や場所で、起こります。犯罪に巻き込まれないためには、危険な場所に行かない、近づかない、知らない人から誘われてもついていけないという、このことは意味もなくまたひとりでぶらぶら歩かないとかそういったことも、学校や家庭でいつも言われていると思いますので……。ただ今、生活環境部長が警察とか市役所とか、またパトロール隊などの活動についてお答えをいただきましたが、一番大事なことは、皆さん一人ひとりが防犯に対するしっかりした気持ちを持つということが大事だと思います。人を疑うというのは本当に悲しいことですよね。しかし、少しでも危険を感じたらやはりそこでは、逃げるか、防犯ブザーを鳴らすと。いうことは、助けを求めなくてはならないと思いますが、ただ大事なことは、観光立市の別府です。人を見たらどんどん逃げていたら、観光客は来ませんので、やはりあいさつ運動をですね、しっかりあいさつをして、こ

の人はあやしい人かどうか、本当に別府を愛してくれて、別府を訪れた人であれば、こんにちは、別府はいいとこでしょ、というおもいでね、あいさつをするということが大切だと思います。そういう意味でしっかり、自分を守るためには、自分がしっかりした気持ちを、防犯に対する気持ちを持つということが大事だと思います。

本当に貴重なご質問ありがとうございました。

議長（松田翔太郎君） 6番。

6番議員（浅井里奈さん） ありがとうございます。別府市が私たちや観光客の皆さんの安全を守るために、行っていることがよくわかりました。これからも、私たちが安全に生活でき、観光客の皆様が、安全に別府に来られるような、環境をつくっていただけるようお願いします。これで、私の質問を終わります。

議長（松田翔太郎君） 次に、26番議員、浜脇中学校の中原美夏さんの一般質問をお願いいたします。

26番議員（中原美夏さん） 以前の浜脇地区は大変活気にあふれたところだったと聞いています。しかし最近では以前のような活気が少しずつ薄れてきたのではないかと感じています。浜脇地区には湯都ピア浜脇などの温泉施設、薬師祭りのような行事もあるにもかかわらず人の訪れの少ないのは、交通の便の悪さに原因があるのではないかと考えています。地区の再開発でまちなみも、まちの建物も整えられてきたと聞いています。けれど浜脇地区は道が狭く、一方通行路が多くて車を使っての移動が大変です。また、交通手段をもっていない人たちの移動手段であるバスも本数が少なく、それらが原因で、観光客の足が遠のくのではないかと思います。

今現在、河内上の道路拡張の工事を行っています。通学路として使用している私達にとっては大変助かっていますが、あの工事はどこまで広げる予定にしているのですか。また、河内だけではなく、その他の浜脇の道路を拡張することは出来ないのでしょうか。これらについてどう考えているかお聞かせ下さい。

議長（松田翔太郎君） 建設部長。

建設部長（金沢 晋君） お答えいたします。

中原さんのご質問は別府と挾間間を結ぶ道路の工事のことだと思っております。この道路整備計画について少しご説明させていただきますと、浜脇二丁目の「湯都ピア浜脇」から東別府駅の上を高架橋で渡りまして、金毘羅神社の真下をトンネル

でくぐり河内地区を經由し、鳥越大橋を渡り、挾間町につながる道路の整備計画でございます。平成5年度から平成9年度にかけて第一期工事として、上河内より鳥越峠の間、鳥越大橋の工事を含みますが、延長約2,600 mを施工しており、完成しておるところでございます。引き続き平成10年度より2期工事といたしまして、中原さんご指摘の河内から「湯都ピア浜脇」までの延長約1,280 mの整備をしております。道路の幅員15mでございます、歩道幅員が3 m50でございます。

この道路は別府市と大分市及び挾間町、庄内町を結ぶ主要な道路と位置づけられておりまして、大分県で整備を行なっているところでございます。

河内地区だけでなくその他の浜脇の道路を拡張することができないかというご質問でございますが、別府市全体の市道の総延長は約632 kmありまして、このうち、道路幅員4 m50未満の狭い道路は約半分を占めております。浜脇地区でなく別府市の全体からみても狭い道路が数多くあります。すぐに拡幅整備が出来ないのが現状でございます。拡幅するためには、個人の用地の買収、それから建物の補償等莫大な費用と日数を要してきますので、長い視点で整備する必要があると考えているところでございます。その間は今現在、中原さん達が使用しております道路を大切にさせていただけたらなあと考えているところでございます。

議長（松田翔太郎君） 市長。

市長（浜田 博君） 中原美夏議員の質問にお答えします。

建設部長より別府挾間線の道路整備の概要を説明いたしましたが、この道路整備は、別府市と隣接する大分市、挾間町及び庄内町を結ぶ重要な道路であります。また、この道路の役割として、大型地震が来たり、津波の災害です、国道10号が通れなくなったとき、通行不可能になったときに、関係機関への緊急時に対応できる代替道路というふうになっておりますので、その機能を持つ路線として期待をする道路でございます。

次の質問ですが浜脇地区は道が狭いと、一方通行が多いということで、道路を拡張することは出来ないかという質問でございます。

別府市は戦災を受けてないということもありまして、昔からの狭い道が浜脇だけでなく、市内に数多く存在しています。別府市では、さきほど答弁しましたように、別府挾間線の整備はもちろんですが、秋葉通り、あるいは中央公民館前の山田

関の江線の整備も主要な幹線道路については、大分県と分担をしながら、道路整備について年次計画を立てて、今進めております。幹線道路以外の狭い道幅の生活道路については、住宅が立ち並んでますね。そういう関係で、整備ということも、非常に難しい状況にあるということをご承知のとおりだと思います。とりわけ浜脇地区というのは、道が狭くても別府温泉発祥の地であって本当に、住んでいる人たちが、元気なってますね。がんばろうという姿を見ております。本当になんとか住んでよかったな、道路も含めてね、住んでよかったまちになってほしいなという想いで、一生懸命まちづくりにがんばって行きたいと思います。今後とも地元の皆さんの意見をしっかり聞いて、協議をしながら検討していきたいと考えております。貴重なご質問ありがとうございました。

議長（松田翔太郎君） 26番。

26番議員（中原美夏さん） ありがとうございます。今、そしてこれからの現状がよくわかりました。今、現在ある道路を大切に使っていきたいと思います。これで私の質問を終わります。

議長（松田翔太郎君） 次に、4番議員、南小学校の奥迫胡桃さんの一般質問をお願いいたします。

4番（奥迫胡桃さん） 旧南小学校と旧浜脇小学校が統合して新しい南小学校となり、4年たちました。最初のころは不安に思っていたのですが、すぐ友達になれ、りっぱな新校舎で毎日元気に勉強やスポーツにがんばっています。新しい南小学校をつくってくれて、ありがとうございます。私は、いつも学校の登下校の時に、前を通る旧南小学校が気になっています。今は、一階を別府市総合教育センター、二階を発明クラブが使っていますが、グラウンドは野球部の練習や駐車場にしか使われていないようです。できればきれいにやりかえて体育館や、アスレチックまた、多目的ホールなどの施設をつくってほしいです。私たちが過ごした4年間の思い出のある場所である旧南小学校のあと地をみんなから喜ばれる施設にしてください。よろしくをお願いします。

議長（松田翔太郎君） 教育長。

教育長（山田俊秀君） お答えいたします。

奥迫さんが新しい南小学校でたくさんの友達と元気に勉強やスポーツに励んでい

るお話を今聞きまして、大変うれしく思います。また、奥迫さんは、自分たちの生活とともに、地域の方々やあるいは別府市民の皆さんの生活についても考えようとしている姿勢に感心しております。

さて、南小学校の跡地の利用についてですけれども、別府市も奥迫さんたちと同じ願いであります。それで、地域の人々のくらしが活発になるように、あるいはまた、多くの市民にとって喜ばれる活用をということで今、考えております。そのために、現在旧南小学校の跡地の利用について、市の中で話し合っているところであります。以上であります。

議長（松田翔太郎君） 総務部長。

総務部長（友永哲男君） お答えいたします。

旧南小学校跡地の活用についてのご質問でございますが、現在、活用方法については、教育長さんが言われましたように、市役所の内部におきまして、旧南小学校跡地の検討委員会というものをつくりまして、市では今お金が少のうございます。それで、南部地区の活性化を図るために、また南部地区の人口の減少化に対応できるものや、市民と地域の人たちが利用できるものを市役所の内部で今、検討しているところでございます。そういう検討がまとまりましたら、また皆さん方にお伝えをしていきたいと思っております。以上です。

議長（松田翔太郎君） 市長。

市長（浜田 博君） 奥迫胡桃議員の質問にお答えいたします。

奥迫さんのご希望については、今、総務部長がお答えをいたしました。旧南小学校跡地の活用は行政としての考え方だけでなく、地域住民やまた市民の皆様のご意見を聞く必要があるだろうと考えております。しかし、このまま放置することはいたしません。一日も早くですね、皆さんが望むようなものができればいいなという気持ちを持っていますし、今お話がありましたように市役所の内部で検討委員会も重ねておりまして、近々、近々、市民の皆さんに例をお示しできる状況が出来るんじゃないかなとこういうふうにも思っております。貴重なご質問ありがとうございました。

議長（松田翔太郎君） 4番。

4番（奥迫胡桃さん） ありがとうございました。南部発展のためにも皆さんから喜ば

れるものをつくってください。よろしくお願いします。これで私の質問は終わります。

議長（松田翔太郎君） 以上で、一般質問を終わります。

休憩いたします。再開は11時10分からです。

午前10時57分 休憩

午前11時10分 再開

議長（西岡拓紀君） 再開いたします。

日程第5により、提言の発表を行います。発表者は、12名です。提言順位により、発表をお願いいたします。

最初に、9番議員、亀川小学校の田代鷹雄君に提言の発表をお願いいたします。

9番議員（田代鷹雄君） 僕は亀川地区への大型ショッピングセンターの設置について提言します。別府市内にはデパートが一つ、スーパーマーケットが多数あります。だけど、デパートはメーカーが決まっていて、小学校高学年が着たり使ったりする品物が少ないです。そのため、同級生は大分市へ買い物に行く人が多いみたいです。

僕たち子供が利用しやすい大型ショッピングセンターを、ぜひつくってほしいです。ゲームセンターはいらないので、遊びやすい遊具などもつけてほしいのですが、どうでしょうか。平日でも、家の人とゆっくり買い物をしたり、ご飯を食べたりできるように、遅くまであいているとうれしいです。

また、できれば、そのショッピングセンターを亀川につくってもらえないでしょうか。亀川駅は古く、海側に回らないと行けません。別府駅が新しくなったように、亀川駅にも大型ショッピングセンターをつくってください。

これで僕の提言を終わります。

議長（西岡拓紀君） 次に、20番議員、青山中学校の阿部紀子さんに提言の発表をお願いいたします。

20番議員（阿部紀子さん） 私は産業施設の設置について提言します。今年、別府に「B-Passage」ができました。外観も別府らしく明るくなり、子ども達からお年寄りまで、幅広い年齢層の方々が訪れています。

しかし実際には、私や私の友だちは、洋服を購入する際には大分まで足を伸ばしています。親戚のお姉さんは、福岡まで出かけていると聞きました。しかし大分や

福岡まで行くと、お金も時間もかかります。もっと手軽に思いついたときに地元別府で買い物ができるようになればと以前から思っていました。また、都会にあこがれ、他県に就職してしまう人も多くいるのは残念です。ですから、例えば10代の若者を対象にして、都会に行かなければ利用することのできないファッションショップをまずはB-Passageに進出させてはどうでしょうか。都会に行かずに別府に定住する若者がもっと増えると思います。

また、今は別府駅周辺にしかそのような施設はありません。鉄輪や杉の井パレス周辺にも、別府ならではの温泉の良さを活かした温泉施設と商業施設が融合したものを建設してはどうでしょうか。さらに、そのような施設がパークプレイスの様に、一カ所に行くことで、洋服や本、CD、食料品などが全てがそろうようなものになれば、地元の者も観光客の方々も利用することができると思います。

幅広い年代の方がもっと集まり、活気にあふれた別府になるためにも別府にさらに商業施設ができることを期待しています。

議長（西岡拓紀君） 次に、24番議員、中部中学校の又江原早紀さんに提言の発表をお願いいたします。

24番議員（又江原早紀さん） 私たちの住む別府市には、古くは鬼の岩屋古墳、実相寺遺跡、建物では中央公民館や野口病院、九州大学の研究所など、歴史あるものが数多くあります。また、「温泉」も遺産の一つです。

ところで、最近が高層マンションや住宅の建設、近代的なまちなみづくりのための道路拡張区画整理が市内で見られます。

近代的なまちづくりは、商業、観光の面からいえばとてもよいと私は思います。ただその面ばかりにとらわれているのではなく、古くからの遺産である温泉や文化的な建物を市民全体で守り、後世に残していくべきだと考えます。

一度埋め立てた海岸線を自然の状態に戻そうという事業があると聞いていますが、私は賛成です。

これからは別府の自然、歴史あるものをどうやって守り、これからできていく新しいものとの共存をどのようにしていくべきかを考えていくことがとても大切だと思います。そのようなまちに私も住んでみたいです。

議長（西岡拓紀君） 次に、30番議員、鶴見台中学校の鈴木麻里さんに提言の発表をお

願いたします。

30番議員（鈴木麻里さん） 私は通学路の公衆電話について提言します。最近、あまり公衆電話を見かけなくなりました。携帯電話を使用する人が増え、利用者が少なくなったからです。実際に私の通学路にあった公衆電話も取り壊されました。確かに利用する人は多くなかったのですが、電話会社の利益がないとしたら、当然の結果と言えるでしょう。けれど、私たち中学生にとっては、様々な連絡に役立ち、とても活躍していた電話だったので、取り壊されてしまったからはすごく不便で困っています。

大人は携帯電話を持っているので、どこでも連絡をとることが出来ると思います。しかし、私たちは通学中に携帯電話を持っているわけではないので、公衆電話がなければ連絡手段はありません。普段の登下校で不便なのはもちろん、緊急時はどうすればいいのだろうかという不安もふくらみます。

私たち小中学生にとっては、各通学路に一台の公衆電話が設置してあるというのが理想的です。しかし、電話会社としては設置しても利益がないので、私たちのためだけに設置するというわけにはいかないと思います。

そこで、別府市の小中学生を代表して、提言いたします。小中学生が安心して登下校できる別府市をめざして、市より電話会社への援助をし、公衆電話の設置をお願いしたいと思います。そして、大人にとっても子どもにとっても、安心して過ごせる別府市になっていくことを望みます。

議長（西岡拓紀君） 次に、3番議員、北小学校の豊田純也君に提言の発表をお願いいたします。

3番議員（豊田純也君） 僕は児童の防犯について提言します。このごろ、子どもをねらった犯罪が多く聞かれます。僕も実際、「ジュース買ってあげるけんついてきて」と言われてこわい思いをしたことがあります。

昨年度、学校から、防犯ブザーを貸してもらいました。これも一つの手ですが、この前友達がこわい思いをしたことがあってブザーを鳴らしたことがあります。ところが大人の人がだれも気づいてくれなかったです。

大人の人に防犯ブザーのことをもっと知らせてほしいです。それから、いつも防犯ブザーをもっているわけにはいかないなので、まちのあちらこちらに直接つながる

ブザーがあるといいなと思います。

ぼくも、テレビで見たことがあります、そのブザーをおすと警察がその場所がすぐにわかるようになっていて、警察が助けに来られると言うものです。

特に公園とか子どもたちがよく遊ぶような場所とかにあるといいなと思います。また、警察にも子どもたちが登下校の時間はとても大変だと思いますが、パトロールを強化してくれるといいなと思います。

もちろん、僕たち子どもたちもできるだけ一人では出歩かないようにします。声をかけられてもついていけないようにするのでよろしくお願いします。

議長（西岡拓紀君） 次に、11番議員、朝日小学校の森永圭一郎君に提言の発表をお願いいたします。

11番議員（森永圭一郎君） 僕は、子どもが人との関わりを持つ環境づくりについて提言します。僕が住む朝日校区は、自然もまだ残り、まちはにぎやかで、すてきな所です。また、人と人があいさつを交わすせまい道が多く、とても温かいものが感じられます。僕は、この人の温かさと笑顔が、何よりもまちづくりに大事なものだとして強く感じています。

そこで、提言します。

今の子どもは、家にこもってしまい、友だちや様々な人と関わるのが減っています。そのため、本当の笑顔や人とのつながり、人生を楽しむ明るい気持ちを知りません。だから、小さな子どもやお年寄りまで、また、住むところも関係なく、様々な人が気軽に集まれる場所が多くあるといいと思います。そして、みんなとふれあえる行事を企画し、子どもたちが人のつながりや思いやりの温かさを感じられるような環境をつくってもらいたいと思います。

僕は、今の別府市と朝日校区が大好きです。だからこそ、これからの別府市が、笑顔に満ちた市であってほしいと強く願っています。なので、ぜひ、人の笑顔を大事にするまちづくりを進めてもらいたいと思います。

議長（西岡拓紀君） 次に、2番議員、境川小学校の後藤健太君に提言の発表をお願いいたします。

2番議員（後藤健太君） 僕は、海、山の景色を活かした別府観光について提言します。

僕は、2年生の春休み、鶴見岳一気登山に参加しました。汗をかいて登ったあと、

山頂から別府のまちを見ました。日の光をあびてきらきら光る海を背景に、まちのあちらこちらに見える白い湯けむりの美しさは、とても印象に残りました。この一気登山に県内外、外国の人にもたくさん参加してもらい、別府の美しい海、壮大な山をぜひ、見てもらいたいと思います。

登山の後、世界第2位の湧出量を誇る、温泉に入ったり、別府湾に船を出し、食事をしながら、こんどは海のほうから別府の夜景を楽しむのもいいと思います。まずは、一気登山を、新聞、テレビ、インターネットなどで、国内外に広くアピールすべきだと思います。そして、僕たちはもう一度別府を訪れたいと観光客が思えるよう、暖かく接することがなによりも大切だと思います。こうすれば、きれいな海、山を背景にした湯のまちのすがたと人情は観光客に強い印象を与えたいと思います。これでぼくの提言を終わります。

議長（西岡拓紀君） 次に、12番議員、石垣小学校の菅弦太君に提言の発表をお願いいたします。

12番議員（菅 弦太君） 子どもと高齢者のかかわりについて僕は、提言します。別府には、やさしいおじいさん、おばあさんがいます。とても親切な方がいます。ぼくの家の近くに、一人のおじいちゃんがいます。毎日、朝と帰りに、「いってらっしゃい」とか「おかえり」とかを言ってくれます。そう言うおじいちゃんと、子どもたちが一緒に昔の楽しい遊びができたらいいな。また、いろんなことを、教えてもらいたいのでそういう機会があるといいなと思います。

別府市で、こんな老人と子どもと一緒に、活動できる場をぜひ設けていただきたいです。これで私の提言は終わります。

議長（西岡拓紀君） 次に、1番議員、野口小学校の田辺ちはるさんに提言の発表をお願いいたします。

1番議員（田辺ちはるさん） 私たち野口小の校区内には、歩行者にとって、とても危険な場所があります。まず、富士見通り横断歩道です。

赤になって待つ時間が約130秒に対して、青になって渡れる時間が約22秒でとても短いです。これは、まだ小さい子どもやお年寄りにとってとても危険です。それに実際、渡りきれず、こまっていたお年寄りを見たことがあります。

野口小校区だけで約500人のお年寄りがいるのです。だから信号の時間をもう少し

しだけ長くしてほしいです。

次に、野口小のうら門から、駅へ向かう道で、仲間通りという道があります。でも、その道はとても危険です。

カーブミラーはもちろんあります。しかし、木がおおいかぶさっていて見えないし、そのミラーは、全くちがう場所を写し出しています。だから、ちがう場所に立て直してほしいです。ぜひ、野口小校区の人、野口小の子どものために、二つの願いをかなえてください。これでわたしの提言を終わります。

議長（西岡拓紀君） 次に、7番議員、南立石小学校の佐藤千聡さんに提言の発表をお願いいたします。

7番議員（佐藤千聡さん） 私が提案するのは、別府市の観光と祭りについてです。現在別府は観光名所として、温泉や地獄が有名です。しかし、ほかの県の人も知っているような、大きなお祭りなどの名物が特にないと思います。温泉まつりは地元で有名ですが、これはなじみになっているせいか、地元で行かない人もいます。私の家族も、何年か前は行っていましたが、今は慣れたとって、もう行っていません。

これに対して、四国の有名な阿波おどりは、他県から、たくさんのおとずれるほか、地元の人でも毎年参加する、とてもにぎやかなお祭りです。私が修学旅行で行った長崎にも、はりこの籠をあやつるおくんちというとても大きな祭りがありました。

別府も他県に負けないような、大きい観光名所や、お祭りをつくってはどうか。地元の人でもたくさん参加できるお祭りをつくれば、きっと有名になり、多くの人が、別府を訪れてくれると思います。

議長（西岡拓紀君） 次に、5番議員、西小学校の岩見英樹君に提言の発表をお願いいたします。

5番議員（岩見英樹君） 僕は、森林・自然の保護について提言します。

僕は、別府の自然や環境のことがとても気になります。

別府市には木や林だけの何も無い空き地がたくさんあります。しかし、いつの間にかその木が切り倒され、土地が整地され、しばらくすると家などが建っていることを何度も目にしました。

そのたびに、僕は、どんどん住宅が建って、どんどん木や林、森林がなくなって

いくような気がしてとても悲しい思いがします。

高速道路ができ、市から市へ行くのにとっても便利になりました。だけど、その分、森林が少なくなっているような気がします。森に住む動物も住む場所をおわれているのではないのでしょうか。別府市は県下でも公園が多い市だと聞きます。しかし、住宅や建物が増え続け、まち全体から木や林などの自然が、どんどん少なくなっているような気がします。社会科での森林の学習で森林の大切さを学びました。

別府市は山と海に囲まれた自然豊かなまちです。生活が便利になる建設を優先するのではなく、大切な森や林、そして海を守っていくためにも、自然保護を大事にしたまちづくりを考えてほしいと思います。これでぼくの提言を終わります。
議長（西岡拓紀君） 次に、28番議員、朝日中学校の古庄美里さんに提言の発表をお願いいたします。

28番議員（古庄美里さん） 私は学校施設の充実について提言します。

私が朝日中学校に入学した3年前、とても緊張し、新しい中学校生活に希望を持っていました。入学式が終わった後、担任の先生が、「この学校にあるものは君たち個人のものではなく、学校のものだから、自分の机とか教室に落書きをしてはいけませんよ。」といわれました。その言葉を聞いて、先生がおっしゃっている意味は分かりましたが、入学式の日に私がまだ使っていない机にはすでに、彫ったような落書きがありました。自分では大切に机を使うつもりでしたが、なんとなく嫌な感じがしました。その後他の生徒が、「机ががたがたします。取り替えてくれませんか。」と先生に頼みにいたりしていましたが、先生は「ごめんな、今から探してみるけど、あまりいいものはないかもしれない。」と答えていました。

朝日中学校の机や椅子はとてもいたんでいます。もちろんこれは私たちの使い方が悪いからだということは分かっています。しかし、入学したときからかなり傷ついたりしては、大切にしないといけないという気持ちも薄れてしまうのではないのでしょうか。

それで提言なのですが、机の天板を生徒一人ひとりに入学する時に買っていただきたいのです。新しい天板を3年間使って毎日の授業に頑張りたいと思っています。私たちの中学校では昨年度空き瓶回収で冷水器を2台買いました。すべての面において市からお金を出してもらおうとは決して思っていません。今後も自分たちの努

力で学校施設を改善できるものは、するように努力していきたいと思っています。
どうかよろしくをお願いします。

議長（西岡拓紀君） 以上で、提言の発表を終わります。

次に、日程第6「議員提出議案第1号 子ども宣言について」を議題（ぎだい）
といたします。

提出者の25番議員、浜脇中学校の松野拓君から、提案理由の説明をお願いいたします。

（25番・松野 拓君 登壇）

25番議員（松野 拓君） 子供宣言。

僕たちは今日、この子ども市議会で別府市の住民として、別府について真剣に考えました。

次の時代に生きていく人たちが住みやすい町をつくり、別府が誇る豊かな自然、
伝統工芸の竹細工、別府市特有の温泉文化を守ることが何より大切だと思います。
そして、市民全員が、また別府を訪れる観光客のみなさんが笑顔で過ごせるように、
ここに次のことを約束し実行していくことを誓います。

1. 私達のふるさと別府について学び、伝統を守り、後生に伝えていきます。
2. 別府の温泉、緑を守り、自然を残すために環境保護に努めていきます。
3. 地域の住民とのつながりを深め、コミュニケーションを大切に、明るい町づくりに貢献していきます。

以上を宣言いたします。

議長（西岡拓紀君） ただいま提案されました「議員提出議案第1号子ども宣言について」に、賛成の皆さんの起立をお願いいたします。

[賛成者起立]

議長（西岡拓紀君） 起立全員です。

よって、「議員提出議案第1号 子ども宣言について」は、全員一致をもって可決されました。

以上で、議事の全てを終了いたしました。

これをもって、第3回「べっぷ子ども市議会」を閉会いたします。

お疲れさまでした。

午前11時32分 閉会

閉 会 式

1. 市議会議長あいさつ 永 井 正 市議会議長
2. 市長あいさつ 浜 田 博 別府市長
3. 記念品贈呈 山 田 俊 秀 教育長
4. 子ども議員代表者謝辞 首 藤 友香理 議員

[閉 会 式]

市議会事務局事務員（吉野真由美さん） それでは、ただいまから、第3回「べっぴん子ども市議会」の閉会式を行います。

まず、最初に、永井正市議会議長より、ごあいさつを申し上げます。

市議会議長（永井 正君） 皆さん、お疲れ様でした。本日の子ども市議会いかがでしたでしょうか。先日委嘱状をお渡しするときに、子ども市議会で、別府市の子どもの代表として、皆の意見を集約をして、この子ども議会にのぞんでほしいということをお願いをいたしました。今日はこの一週間の中に、よく意見をまとめて素晴らしい質問をしていただいたと、こういうふうに思っております。この別府という皆さんのふるさとで色々な考えを持った人たちが生活をしています。そしていろんな人たちの多数意見も少数意見もくみ上げて市政を運営し、少しでも暮らしやすく、希望を持って愛せるふるさとづくりをしていくのが議員の役目であります。人の立場にたってみるということは非常に大切なことです。自分もそして自分以外の人もみんなが幸せに暮らせる方法を考える場所。その場所がこの議会であります。皆さん方は本日ここで子どもたちの代表議員として、議会に参加をするという経験を持ったことは、みなさんの住む別府に興味を持つ、ひとつの大きなきっかけになったことと思います。また、今日発表された意見やアイディアは、わたしたち大人が気がつかなかったことにも及んでおりました。ぜひ、今の気持ちを未来へと向けていただきたいと思います。

今日私たちは皆さん方に多くのことを学びました。こうやって世代を超えて学びあうということは、大切なことでもあります。皆さん方もあと、10年もたないうちに、成人としてこのまちをささえていかなければなりません。今から市政というもの、とりわけどうすればみんながいきいきと暮らせるまちになるか、ということを考えていただきたいと思います。

あなたたちは、わたしたち大人の大きな希望であります。これからも今日のこの経験を大切にして、がんばって未来の別府を考えてほしいと思っております。

最後に、この子ども市議会の開催にあたりまして、ご尽力をいただきました、先生方、PTA並びに別府市子ども会の皆様方に対しまして心から感謝を申し上げます、

私のごあいさつといたします。本日はどうもありがとうございました。（拍手）
市議会事務局事務員（吉野真由美さん） 続きまして、浜田博市長より、ごあいさつを
申し上げます。

別府市長（浜田 博君） みなさん、本日は本当にありがとうございました。小学生と
中学生一緒にこうして、子ども市議会、今回でちょうど3回目ですね。これまで人
数が64人の子ども議員が誕生しております。今回のこの数を入れまして96人となり
ました。そして今年もまた、素晴らしい一般質問と提言をいただきまして、本当に
ありがとうございました。ふれあい町づくり別府子ども宣言までいただきまして、
大変感動いたしております。私自身も大変良い勉強になりましたし、執行部の皆さんも、
どう答えたら、わかりやすい言葉で皆さんに説明できるかなと毎日毎日一生
懸命勉強してました。皆さんが勉強した以上にわかってもらいたいなという想いで
一生懸命勉強してお答えをしたと思っております。先ほど永井別府市議会議長さん
からも、お話がありましたので長くは申しませんが、今年は特に教育関係のお話が
多いのかなと思っていたんですが、非常にいろんなところに目が届いたといえます
か、特に安全、きれい、安心、環境、観光、このようなキーワードがたくさん出た
ような気がいたします。21世紀はまさに環境の時代ですよね。さらに心の豊かさの
時代であり、そして人権の時代ともいわれてます。災害に強いそしてだれもが安全
で安心できるまちづくりと、また自然環境を大切にしようという皆さんの心、これ
を活かしたきれいなまちづくり、そして高齢者の方にも、児童のみなさんにも、障
害者の皆さんにもまた、留学生の皆さんにも本当にやさしいまちづくりを進めてほ
しいという気持ち。それから別府を訪れる観光客の皆さんのためのまちづくりはど
うあるべきかというようなこともたくさん提言いただきました。どれもこれも本当
に大切なまちづくりだと思っております。そしてこの21世紀のまちづくりの主演は、
ここにいる皆さんです。まさに主演なんですよ。これからみなさんがこの別府市を、
大分県を、日本をささえていく、本当に優秀なみなさんですから、ぜひがんばって
ほしいと思います。ちょうど、先ほどお話もあつたんですが10年すると成人といひ
ますが、10数年しますと被選挙権があたえられます。いわゆる25歳になりましたら、
みなさんは市会議員に立候補できる。こういう状況になります。よし、この中から
別府のために市会議員に出て、しっかり別府に注文してやろうと、いう人がでてほ

しいなと期待しております。その時に、わたしは小学校6年生のとき、中学2年生のとき、市議会議員になったんだよと子ども市議になってそして、当時の別府市長にこういう質問をした、こういう提言をしたんだよと。しかし10年たってぜんぜん変わってないな。何もよくなってない。その時の市長さんにしっかりしかってくださいな。私はもうそのときおりませんが、その時の市長さんがほめられるように、これから執行部あげて皆さん方の質問、提言を活かしてがんばっていきたくてこのように思っております。皆さん方はこの夏休み中、本当に一生懸命勉強にはげむと同時に、家族の皆さん、そして友達の前も思い出に残る夏をすごしていただきたいと思っております。

最後になりましたが、傍聴をいただきました保護者の皆さん、そして、ご指導いただきました先生方、本当にありがとうございました。どうぞ本日の子どもたちの純粋な気持ちをしっかり受け止めていただきまして、これからも別府市発展のためにご支援とご指導、ご協力のほどをよろしくお願いを申し上げます。また、第3回の別府子ども市議会の開催にご尽力いただきました別府市子ども会育成会連合会、そして市のPTA連合会の皆様、保護者の方々、先生方、そして別府市議会子ども会を支える議員連盟の皆様方に心から感謝を申し上げます、お礼にかえたいと思います。皆さん本当にありがとうございました。（拍手）

市議会事務局事務員（吉野真由美さん） 続きまして、山田俊秀教育長より、本日頑張っていたいただきました子ども議員の皆さん方に、記念品を贈呈いたします。

代表 東山中学校2年 首藤友香理さん

〔教育長より記念品贈呈〕（拍手）

市議会事務局事務員（吉野真由美さん） ここで、子ども議員を代表して、首藤友香理さんより、お礼の言葉があります。

子ども議員、執行部並びに来賓の皆様は、全員ご起立願います。

〔全員起立〕

子ども議員代表（首藤友香理さん） 今日、わたしたちの質問や提言に対して具体的にそしてわかりやすく答えていただきありがとうございました。今日の質問や提言は、この別府市をもっとすてきにするためのわたしたちの願いです。今すぐにはかなわないかもしれませんが、わたしたちの願いの実現に向け、市長さん、議長さん、そ

して市役所の皆さん、よろしく申し上げます。わたしたちも未来に向けとてもいい別府市にするためにいましなければならぬことを今日の議会を参考にして一生懸命がんばります。今日議会に参加できたわたしたちは、とてもいい経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。（拍手）

市議会事務局事務員（吉野真由美さん） それでは、皆様ご着席ください。

〔全員着席〕

市議会事務局事務員（吉野真由美さん） 以上をもちまして、第3回「べっぷ子ども市議会」の閉会式を終了いたします。



別府市議会子ども会を
支える議員連盟 会長

首藤 正

第三回「べっぷ子ども市議会」の開催に当たり、ご尽力頂きました先生方はじめ、PTA、市子連の皆様にご心より感謝申し上げます。

今から10年、20年前、子供会活動は非常に盛んでした。そして、その中で子供は、その年齢ごとの役割を承知して助け合っていたものです。その小さな社会が大きな社会への架け橋になっておりました。

私たちは、夢や理想を心いっぱい抱えている子供たちを愛情を持って育てていかなければなりません。

私たち「子ども会を支える議員連盟」は、子供たちの心を豊かにし、助け合うことを学ぶことこそ、未来のこの美しいふるさとが幸せに満ちた町になる原動力になることを願ってやみません。



別府市教育長

山田 俊秀

市内の小・中学生32名一人一人の質問・提言の内容を見ますと、子どもらしい夢のある豊かな発想と大人顔負けの多面的なものの見方・考え方が随所に見られ、将来の別府を担う子どもたちとして、本当にたのしく感じました。

また、内容はもちろんのこと、議場での発表態度や聞く態度もすばらしく、学校・地域・家庭それぞれにおける子どもたちへのご指導に心より感謝いたします。

本年の「子ども宣言」のテーマは、「ふれあい町づくり」であり、別府が誇る豊かな資源や伝統を守るとともに、人と人とのつながりを深めていくという、すばらしいものでした。このことを大人が率先して実行し、子どもたちにつなげていくことが大切だと強く感じました。

教育委員会も子ども議員の考えが生かされるよう、今後も努力してまいります。



別府市子ども会
育成会連合会 会長

平松 徹夫

本年度で第3回目を迎えた「べっぷ子ども市議会」は大きな成果をあげて終わることが出来ました。子ども議員の皆さんから出された提案や課題などは今後の市政運営に活用される事と期待しています。

子ども会では子ども達が意見を表明する機会を作ろうと運動しています。「子ども市議会」はまさに「意見表明権」を具体化していただいたものと感謝しています。

又子ども議員の皆様にとってふるさと別府についていろいろな問題点や課題を自ら見つけて学習し、発表出来たことはこの夏休みでの最大の思い出が作れたのではないかと思います。

この子ども市議会での体験をこれからの学校生活や家庭生活の中で活かしてほしいと願っています。

終わりに、後援をいただきました別府市議会子ども会を支える議員連盟の皆様にご心よりお礼を申し上げ、挨拶とさせていただきます。



別府市PTA連合会
会長

中島 一志

第3回「べっぷ子ども市議会」が開催されました事を大変感謝しております。近年若者の政治離れや地域活動に対する関心が薄れている時にこの様な各学校の代表による市議会本会議場に於いての質問、提言を経験する事は子ども達にとって素晴らしい思い出になる事と思います。

将来この子達が住み良い別府市にしてくれる事を願ってやみません。開催にあたり準備、支援して下さいました方々に心よりお礼申し上げますと共に質問や提言が市政に反映されます事を祈っています。

「ふれあい町づくり別府」 子ども宣言

僕たちは今日、この子ども市議会で別府市の住民として、別府について真剣に考えました。

次の時代に生きていく人たちが住みやすい町をつくり、別府が誇る豊かな自然、伝統工芸の竹細工、別府市特有の温泉文化を守ることが何より大切だと思います。そして、市民全員が、また別府を訪れる観光客のみなさんが笑顔で過ごせるように、ここに次のことを約束し実行していくことを誓います。

1. 私達のふるさと別府について学び、伝統を守り、後生に伝えていきます。
2. 別府の温泉、緑を守り、自然を残すために環境保護に努めていきます。
3. 地域の住民とのつながりを深め、コミュニケーションを大切にし、明るい町づくりに貢献していきます。

以上を宣言いたします。

平成 17 年 8 月 2 日

べっぴん子ども市議会